

令和8年度 年間指導計画

教科	国語	履修年次	1年次
科目名	現代の国語	使用教科書	17-110101002002-901
単位数	2単位		新編現代の国語
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
4月		1	自己を見つける					
	6		こそめスープ					
				・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。			○	○
	12		ルリボシカミキリの青					
				・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				○
5月		2	他者に出会う					
	24		未来をつくる想像力					
				・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。				○
	33		水の東西					
				・比喻、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。				○
		3	言葉と生活1		1h	○		
6月		4	視野を広げる					
	68		スキマが育む都市の縁と生命のつながり					
				・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。				○
	78		無彩の色					
				・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。				○
	87		ハサミ					
				・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。				○
7月		5	社会と関わる					
	100		鍋洗いの日々					
				・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。				○
8月	106		森で染める人					
				・目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。				○
9月	116		動きを引き出す言葉の力					
				・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。				○
		6	言葉と生活2		1h	○		
10月		7	世界とつながる					
	152		美しさの発見					
				・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				○
	160		りんごのほっぺ					
				・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				○
	169		人生という旅の豊かな人間関係					
				・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。				○
11月		8	未来に目を向ける					
	184		天動説はなぜ「正しかった」か？					
				・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。				○
12月	193		真の自立とは					
				・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。			○	○

教科	国語	履修年次	1年次
科目名	言語文化	使用教科書	17-110102002002-901
単位数	2単位		新編言語文化
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
			現代文編					
4月			1 随筆					
	10		さくらさくらさくら					
				・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				○
	18		心の自由					
				・特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				
5月			2 小説1					
	24		とんかつ					
				・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。				○
	36		オレンジの実る中庭					
				・特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。				
			3 詩歌					
	54		柳あをめ					
				・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。				○
	58		雪の深さを					
				・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価してする。				○
	62		冬が来た					
				・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。				○
	64		少年の日					
				・作品や文章の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。				
	66		I was born					
				・文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。				
6月			4 小説2					
	76		羅生門					
				・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。				○
			5 小説3					
	98		夢十夜					
				・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。				○
	111		デューク					
				・特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。				
			古文編					
7月			1 古文入門					
	124		古文を親しむ					
				・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。				
8月	128		児のそら寝					
				・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。	1h	○		
	132		検非違使忠明					
				・当時の人々の信仰について理解する。				
	134		用光と白波					
				・用光と海賊の行動及び心情を読み取る。				
	138		絵仏師良秀					
				・良秀の人物像について考える。				
9月			2 随筆					
	146		徒然草					
				・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。				○
	154		枕草子					
				・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。				
			3 詩歌					
	164		折々のうた					
				・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。				○

	4物語					
178	伊勢物語					
	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。					○
10月 187	平家物語					
	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	lh	○			○
	5紀行					
198	奥の細道					
	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。					○
	漢文編					
11月	1漢文入門					
218	訓読の基本					
	・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。				○	○
228	故事成語					
	・我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。					
	2漢詩					
236	絶句と律詩					
	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。					○
	3論語					
246	論語					
	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				○	○
12月	4史話					
256	史話					
	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。					○

教科	国語	履修年次	2年次
科目名	論理国語	使用教科書	17-110103002701
単位数	4単位		新編論理国語
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		I 部						
4月		1広がる風景						
	8	対話とは何か		・対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。				○
	15	世界をつくり替えるために		・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。				○
		2考える手がかり						
	26	少女たちの「ひろしま」		・戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。				○
	37	「ふしぎ」ということ		・挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。				○
		3人間と知性						
	56	学ぶことと人間の知恵		・文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。				○
6月	66	ラップトップ抱えた「石器人」		・事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。				○
		4現実の中で						
	76	思考の肺活量		・比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。	lh	○		○
	83	安心について		・文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。				○
		5ものの見方					○	
	102	弱肉強食は自然の摂理か		・筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。				○
	114	複数の「わたし」		・文章に示された考え方を手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。	lh	○		○

	6働くよろこび					
124	はじめに「言葉」がある					
	・筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。					○
8月	132 楽に働くこと、楽しく働くこと					
	・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。	1h	○			○
	II部					
	I時代をひらく					
168	最初のペンギン					
	・タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。	1h	○			○
176	豊かさと生物多様性					
	・論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。					○
	2新しい視点から					
186	物語の外から					
	・二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。					○
193	カフェの開店準備					
	・日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。					○
10月	3科学と人間					
210	鏡としてのアンドロイド					
	・アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。					○
219	ロボットが隣人になるとき					
	・哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。					○
	4豊かな認識					
232	言葉は「ものの名前」ではない					
	・言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。					○
240	科学的「発見」とは					
	・本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。					○
11月	5知のゆくえ					
262	知識における作者性と構造化					
	・インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。					○
271	もう一つの知性					
	・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。					○
12月	6明日をみつめて					
282	ホンモノのおカネの作り方					
	・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。					○
291	未来のありか					
	・小見出しを参考にして各部分の内容及び関係を読み取り、未来とは何かについて考える。					○

教科	国語	履修年次	3年次
科目名	古典探究	使用教科書	17-110106002701
単位数	4単位		新編古典探究
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		古文編I部						
4月		I 説話に親しむ						
	10	宇治拾遺物語						
			・帝の簞への疑いの原因と、その疑いを晴らしたものが、ともに簞の学才にあることを理解する。 ・言葉遊びのおもしろさがどこにあるかを読み取る。 ・「帝はほは笑ませ給ひて、事なくてやみにけり。」となった理由を考える。					○
	12	十訓抄						
			・定頼中納言の言動の内容を読み取る。 ・小式部内侍のとった行動を読み取る。 ・和歌文学、および和歌の技巧について理解する。					○
	14	宇治拾遺物語						
			・絵巻の描写部分と対応させながら内容を理解する。 ・話のおもしろさについて考える。					
		2 随筆を読む			1h	○		
	20	徒然草						
			・主語を確認しながら、話のあらすじを読み取る。 ・聖海上人の言葉の変化に沿って、その心情を読み取る。 ・この話のおもしろさは、どういうところにあるか考える。 ・人物の行動を整理する。					○
	29	方丈記						
			・構成と内容を捉える。 ・「人」と「栖」と、「ゆく河の流れ」と「淀みに浮かぶうたかた」との類似点について考える。 ・『方丈記』で描かれる「無常観」について考える。					○

	3作り物語を読む					
32	竹取物語					
	・かぐや姫の言動に注目し、その人物像について考える。 ・「天の羽衣」は、かぐや姫にどのような変化をもたらしたか、考える。 ・帝の心情と行動について考える。				○	○
	4和歌の世界	1h	○			
40	小倉百人一首の世界					
	・「君がため…」の歌について、筆者が「視覚」「心情」それぞれの面からどのように評価しているかを確認する。 ・「ちはやぶる…」の歌について、どのような情景を詠んだと考えられるかを確認する。 ・「わが袖は…」の歌について、「沖の石」のどのような状態を、どのような心情にたとえたかを確認する。 ・「めぐりあひて…」の歌について、月のどのような様子を、幼友達のどのような様子にたとえたかを確認する。					○
	5日記を読む					
54	土佐日記					
	・当時の月日や時刻の呼び方について知る。 ・この章段に書かれている旅立ちの事情を読み取る。 ・臆化表現、機知を感じさせる表現を指摘し、この作品の特色を考える。 ・作者がどのような日記を書こうとしているのかを考える。 ・自邸の荒れた様子と、管理を申し出ている隣人に対する不信感と憤りを読み取る。 ・和歌を詠むに至った経緯と心情、および和歌の内容を読み取る。 ・冒頭と照応している結語であることを理解する。					○
58	更級日記					
	・作者の育った東国の生活について理解する。 ・作者の物語への憧れについて読み取る。 ・門出にあたっての作者の心情を読み取る。 ・作品全体の冒頭部分としての意味を考え、この日記の構造と主題を理解する。 ・「源氏の物語」を手に入れた経緯と、それまでの作者の気持ちを読み取る。 ・「源氏の物語」を読む感動はどのように描かれているか読み取る。 ・ここに語られる「夢」とはどういうものか理解し、それに対する作者の態度を読み取る。 ・「まづいとはかなく、あさまし。」という表現に注目して、少女時代の物語耽溺に対する晩年の思いを知る。					○
	6軍記物語を味わう					
66	平家物語					
	・全体の構成を意識しながら通読して、あらすじをつかむ。 ・第一段落と第二段落における、教経の奮戦の様子を読み取る。 ・教経がどのような人物として描かれているか考える。 ・第三段落の知盛の発言に着目し、知盛がどのような人物として描かれているか、教経と対比しながら考える。					○
6月	7近世文学の世界					
76	世間胸算用					
	・「八助」の人物像と、商売の方法を読み取る。 ・「親仁」の言葉の比喩の意味を考え、話の展開を確認する。 ・話の結末を踏まえ、どのような教訓が込められているのか考察する。					○
79	おらが春					
	・段落ごとに、さとがどのように描かれているか把握する。 ・さとに対する作者の思いを、たとえの表現から考える。 ・本文に描かれた家族のありようから、作者の人生観を読み取る。					○
	古文編Ⅱ部					
	Ⅰ随筆を味わう					
86	枕草子					
	・この章段の「ありがたし」の意味を、列挙されているものから類推する。 ・列挙された事例の特徴を考える。 ・作者の自然を見る視線の鋭さが、どの描写に見られるかを読み取る。 ・「をかし」の語に込められている作者の心情を読み取る。 ・登場する人物を挙げ、会話部分が誰の言葉であるかを理解する。 ・「さては…くらげのななり。」について、その意味内容を読み取る。 ・隆家と作者の会話から、二人の人物関係について理解する。 ・末尾の記述に表れている作者の心情を読み取る。 ・場面を読み取り、発言の主体と動作とを把握する。 ・作者のどのような行動が中宮の心になかったのかを読み取る。 ・女房たちが作者をどのように評価していたかを読み取る。					○
	2歌物語を楽しむ					
94	伊勢物語					
	・本文を現代語訳し、内容を読み取る。 ・「春日野の…」の歌と「陸奥の…」の歌を比較し、前者の表現の工夫を理解する。 ・最終部の評語から、この章段の主題を考える。 ・本文を通読し、旅の行程に注目しながら、いくつかの場面に分ける。 ・主人公の「男」が「東下り」をするに至った事情について学び、その時の男の心情を考える。 ・「唐衣…」の歌に用いられた和歌の修辞を理解するとともに、そこに詠み込まれた心情を理解する。 ・第二～第五段落において、どのような場所を、どのように旅したか、具体的に考える。 ・第二～第四段落において、「宇津の山」「富士の山」がどのように描写され、和歌に取り入れられているか考える。 ・第五段落において、「すみだ川」のほとりでの、男たちの心情について考える。 ・それぞれの和歌における工夫について理解する。					○
103	大和物語					
	・話の概略を理解する。 ・「をば」を山に捨てたまでの男の気持ちが変わるかに変化しているか理解する。 ・男が「をば」を迎えに行ったきっかけを読み取る。					○

	3歴史物語を読む					
108	大鏡					
	・登場人物を確認する。 ・帝の処置の厳しさと、「東風吹かば…」の歌に表れた道真の心情を読み取る。 ・道長と公任の当時の関係を理解する。 ・「小倉山…」の歌を解釈し、用いられている修辞等からこの歌の特徴を読み取る。 ・公任が後悔している心情を考える。 ・公任の人物像を、本文の公任の言動を根拠にして考える。 ・道長と道隆・伊周との関係を確認する。 ・勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。 ・勝負の結果を受けての道隆の心境と、その後の展開を考える。					○
	4歌話・歌論を読む					
118	袋草紙					
	・本文を前後二つの内容に分けて、構造を確認する。 ・内容を大まかにつかむ。 ・共通するものは何か理解する。					○
120	無名抄					
	・頼政の歌と能因の歌について比較する。 ・頼政の気持ちを考える。 ・俊恵の気持ちを考える。					○
123	古今和歌集仮名序					
	・歌論に述べられた論旨を捉え、自分の考えを深める。					
	5作り物語を味わう					
126	源氏物語					
	・現代語訳をする。 ・敬語について理解する。 ・物語世界がどのような状況であるかを理解する。 ・物語の書きだしについて考える。 ・登場人物の描写の特徴を理解する。 ・登場人物の心情を読み取る。					○
8月	6俳諧に親しむ					
140	近世俳句抄					
	・解説文を基に各句の句意を把握する。 ・各句の季語について考察する。 ・各句に詠まれた情景あるいは心情について考察する。					○
145	去來抄					
	・酒堂の提案が、月と猿の伝統的な構図による取り合わせの、平凡な着想であることに気づく。 ・「月の客」が、去來の意図と芭蕉の解釈とは、どのように違っているのか、現代語訳する。 ・去來の言葉と句の鑑賞から、芭蕉の解釈の優れている点を考える。					○
147	三冊子					
	・俳諧の特性と「俳諧の誠」について理解する。					○
	7伝承の世界					
150	古事記					
	・弟橘比売命の行動を読み解く。 ・「吾妻はや。」と発した倭建命の心情と、地名起源について理解する。 ・酒折の宮の逸話から、古代の言葉の霊性を理解する。 ・伊勢岐の山での倭建命の失敗について理解する。 ・交互に出てくる地の文と歌謡の役割および歌謡に込められた心情について理解する。					○
	漢文編Ⅰ部					
	Ⅰ 故事と小話					
158	小話					
	・脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。 ・「為スニ蛇ノ足ヲ者」が酒を失った理由を考える。 ・「蛇足」などの故事成語の意味や使い方を知る。					○
	2漢詩と文					
166	唐詩					
	・作者について理解する。 ・詩の内容を捉える。 ・唐詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。 ・正確な現代語訳をする。				○	○
175	文					
	・正しく現代語訳し、内容を確認する。 ・段落相互の關係に留意し、各段落の要点を整理する。 ・作者は「伯楽」と「千里馬（名馬）」の比喻によって何を主張しようとしたのかを考える。 ・話の展開を理解する。 ・「桃花源」とはどのような村か、確認する。 ・「桃花源記」の作者陶潜が、この作品を書いた思いについて考える。					○
10月	3史記を読む					
182	項羽と劉邦					
	・本文を書き下し、現代語訳する。 ・項羽の人物像について考える。 ・「項羽笑曰」の笑いとはどのような笑いか考える。	1h	○			○

4中国の知恵					
198	寓話				
・正しい訓読をもとに正確に現代語訳する。 ・主題を整理する。 ・「出藍の誉れ」がここから生まれた故事成語であることと、その一般的な意味について確認する。 ・韓の昭侯が「典冠」と「典衣」双方を処罰した理由を理解する。 ・『韓非子』が説く「明主」のあり方を理解する。 ・「刻舟求剣」の故事成語の意味を参考にしながら、本文の主題を考える。 ・「塞翁」と周囲の人々の場面ごとの言動を確認する。 ・「塞翁」の考え方について確認する。 ・「塞翁が馬」という故事成語の意味や使い方を理解する。 ・「杞憂」という故事成語の意味や使い方を理解する。					○
5三国志の世界					
208	十八史略				
・話の内容を大まかに捉える。 ・本文を書き下し、現代語訳する。 ・諸葛亮が自らを管仲・楽毅になぞらえていた、とはどのようなことか、考える。 ・諸葛亮はどのような人物であるのか、考える。 ・諸葛亮の「天下三分の計」の要点を具体的に理解する。 ・諸葛亮の献策を劉備はどう評価したのか、考える。 ・劉備と諸葛亮の相手に対する心情と、深い信頼関係を読み取る。 ・劉備の遺言に対する返答から、諸葛亮の人柄を考える。 ・この話からわかる孔明の人柄を読み取る。 ・諸葛亮と司馬懿の考えを把握する。 ・司馬懿の心理を考える。				○	○
漢文編Ⅱ部					
Ⅰ小話を読む					
220	小話				
・主語を確認しながら内容を正確に捉えて現代語訳する。 ・疑問形・二重否定・反語形・使役形の用法を確認する。 ・本文から読み取れる帝堯の人柄について読み取る。 ・「鼓腹撃壤」の意味を考える。 ・受身形の句法を確認する。 ・楚軍に対する、目夷と襄公の対応の違いを整理する。 ・仮定形と反語形の句法を確認する。 ・陳勝の傭者に対する発言と、傭者の返答、それに対する陳勝の気持ちを整理する。 ・二人称「若」について確認する。 ・陳勝の徒属に対する発言について、どんな点に説得力があったのか読み取る。 ・反語形の句法を確認する。 ・志を立てる意味の故事成語について理解する。					○
11月	2古詩を味わう				
228	古体詩				
・詩を正確に読んで書き下し、現代語訳する。 ・詩形と押韻・対句を確認する。 ・「桃夭」「上邪」にうたわれた主題や作者の心情を考える。 ・「飲酒」「子夜呉歌」にうたわれた主題や作者の心情を考える。 ・全体を八つの場面に分け、その内容を把握する。 ・楊貴妃の生い立ち、美しさ、漢皇（玄宗）の様子や寵愛ぶり、それを取り巻く人々の対応などを読み取る。 ・安祿山の進攻による楊貴妃の死を捉える。 ・楊貴妃没後の行宮における漢皇（玄宗）の描写を読み取る。 ・長安に戻る途中での楊貴妃の死亡場所における情景を読み取る。 ・長安に戻った後の宮廷をはじめ漢皇（玄宗）の様子を読み取る。 ・道士による不思議な仙術を読み取る。 ・「長恨歌」という題に込められた意味を考える。					○
3史記を味わう					
242	廉頗と藺相如				
・書き下し、現代語訳する。 ・趙王の態度に対する、廉頗と藺相如の言動を読み取る。 ・使役形・仮定形・願望形の句法を確認する。 ・会見の内容の主語を捉える。 ・「寡人」「於是」「不肯」について確認する。 ・「不能」と「能」とについて、比較する。 ・「不敢」と「敢不」とについて、比較する。 ・廉頗の藺相如に対する気持ちと、藺相如の行動を整理する。 ・限定形の句法を確認し、「徒」から「独」「纔」「耳・爾・已」等まで発展させる。 ・接続詞「而」の用法を確認する。 ・抑揚形・選択形・比較形の句法を確認する。 ・部分否定と全部否定を学ぶ。					○

		4中国の思想					
12月	250	儒家と道家					
		・現代語訳する。 ・「吾嘗終日不食…」の章から、「思」と「学」の関係について考える。 ・「君子和而不同…」の章から、「君子」について考える。 ・「道之以政…」の章から、「政治」について考える。 ・孔子の言う「性」について考える。 ・『論語』における「人間の本性」について考察する。 ・孟子の性善説について理解する。 ・孟子の論理展開について考え、その説得術を理解する。 ・孟子と荀子の相違点から、それぞれの論理展開の巧みな点について読み取る。 ・老子が「無用之用」の具体例として挙げている物が、どのような「用」を果たしているか理解する。 ・逆説的表現を理解する。 ・「小国寡民」とはどのようなものかを理解する。 ・老子が描く理想郷について理解する。 ・「曳尾於塗中」に述べられている荘子の生き方を把握する。					○
		5日本の漢詩文					
	262	詩					
		・詩形と構成、押韻を確認する。 ・訓点に従って、書き下す。 ・詩題と展開に注意して現代語訳し、詠まれている状況を考える。 ・詩が詠まれた背景を踏まえて、それぞれどのような心情が詠まれているかを考える。					○
	266	信玄と謙信					
		・句法に注意して、現代語訳する。 ・登場人物がそれぞれがどのような行動をとったか整理する。 ・謙信の戦に対する考え方を理解し、またその器の大きさを考える。 ・謙信はどのような作戦を考え、また信玄はそれに対してどのような判断を下したかを読み取る。 ・信玄の武将としてのすばらしさを理解する。	1h	○			○

教科	地理歴史	履修年次	2年次
科目名	地理総合	使用教科書	17-110201002002-901、17-110206046046-901
単位数	2単位		地理総合、新詳高等地図
学習目標	地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情を育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
7		第1編	地図と地理情報システムでとらえる現代世界					
4月		第1章	地図と地理情報システム					
	10	1節	私たちが暮らす世界					
			・地軸の傾きや自転・公転による影響を理解する。 ・地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考える。					○
	16	2節	地図や地理情報システムの役割					
	33		・私たちの生活にさまざまな地図が利用されていることを理解する。 ・多様な地図が生活を便利にしていることを理解し、地図利用のさまざまな可能性を考える。	1h	○			○
		第2章	資料から読み取る現代世界					
	53	第2編	国際理解と国際協力					
		第1章	人々の生活文化と多様な地理的環境					
	56	1節	生活文化の多様性と国際理解					
			・地域によって文化が異なる理由について理解する。 ・文化は持続することもある一方で、変容することもあることを理解する。				○	○
6月	62	2節	生活文化と自然環境①地形					
			・山地におけるさまざまな暮らしの工夫について理解する。 ・山地における自然的、文化的なめぐみに気づき、その利用について理解する。					○
	72	3節	生活文化と自然環境②気候					
			・大気の大循環によって生じる気圧帯について理解する。 ・気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考える。					○
8月	86	4節	生活文化と社会環境①産業					
			・自然環境の面から、食生活の地域差について理解する。 ・社会環境の面から、農業形態の地域差について理解する。 ・食文化に多様性が生じる理由について理解する。					○
	98	5節	生活文化と社会環境②宗教・民族					
	117		・さまざまな宗教のもつ特徴を把握する。 ・地図を用いて、世界の宗教分布について歴史的背景を含めて理解する。					
		第2章	さまざまな地球的課題と国際協力					
	120	1節	地球環境問題					
			・環境問題の発生が、人間の活動によって引き起こされていることを理解する。 ・生産・消費活動により環境問題が発生することを理解し、解決に向けた取り組みを考える。					○
	126	2節	資源・エネルギー問題					
			・資源・エネルギーの生産地と消費地は地理的に離れていることを理解する。 ・新興国のエネルギー需要の増加を理解し、資源をめぐる対立が生じる要因を考える。	1h	○			○

10月	132	3節 人口問題	・18世紀後半以降から現在にかけての世界の人口推移とその背景を理解する。 ・発展途上国が抱える人口問題を理解し、その要因・影響を考える。					○
	138	4節 食料問題	・食料問題が生じる背景について理解する。 ・食の安全に関する問題について知り、その対策について理解する。					○
	142	5節 居住・都市問題	・発展途上国が進む都市人口の増加の背景を理解する。 ・発展途上国の大都市における生活や都市環境の変化から居住問題について理解する。					○
	146	6節 民族問題・紛争と平和の構築	・ヨーロッパで起こった難民危機を手がかりに、難民と民族問題について理解する。 ・難民が発生する原因や、民族問題の背景について考える。					○
	152	7節 持続可能な社会の実現をめざして	・地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解する。 ・先進国と発展途上国の対立などの課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考える。					
	173	第3編 持続可能な地域づくりと私たち						
11月		第1章 自然環境と防災						
	176	1節 日本の自然環境の特色	・日本の地形の特徴について理解する。 ・日本の地形の特徴が河川や海岸の特徴にどのような影響を与えているかを理解する。					○
	180	2節 さまざまな自然災害と防災						
	205		・プレート境界地震とプレート内地震の違いについて理解する。 ・震源の位置や土地の条件によって、引き起こされる被害に違いがあることを理解する。	1h	○			
		第2章 生活圏の調査と地域の展望						

教科	地理歴史	履修年次	3年次
科目名	地理探究	使用教科書	17-110202002701、17-110206046046-901
単位数	3単位		地理探究、新詳高等地図
学習目標	我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		第1編 現代世界の系統地理的考察						
4月		第1章 自然環境						
	12	1節 世界の地形	・生活環境の基盤となる地形の重要性、地球表面の起伏の状態とその形成要因について理解する。 ・世界の大地形の分布の特徴についてプレート境界や地震帯・火山帯分布との関係から理解を深める。 ・変動帯の特徴とその形成過程をプレート運動との関係からとらえるとともに、人間生活との関係について理解する。 ・安定地域の特徴や形成過程、人間生活との関係について理解を深める。 ・変動帯に見られる小地形の一つである河川がつくる地形の特徴とその形成過程、人間生活との関係について理解する。 ・海岸地形やサンゴ礁地形の特徴とその形成過程、人間生活との関係について理解する。 ・氷河地形や乾燥地形、カルスト地形の特徴とその形成過程、人間生活との関係について理解する。					○
	34	2節 気候と自然環境	・気候の形成要素である気温と降水量の世界的な分布の特徴について理解する。 ・大気循環による風の流れの特徴と、それによって形成される降水量分布の特徴から、大気循環と気候について理解する。 ・海洋と陸水における水の循環が、気温分布や水資源の維持に影響を与えていることについて理解する。 ・世界規模での各気候帯の分布の特徴をふまえ、各気候帯と植生や土壌との対応関係について理解する。					○
	42	3節 気候と人々の生活	・各気候区の種類基準の理解をふまえ、雨温図やハイサーグラフの作成・読み取りを通じて、各気候区について理解する。 ・熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯（冷帯）・寒帯・高山気候の各気候区の特徴やそこの生活・文化、生じている諸課題について多面的・多角的に理解する。 ・異常気象と気候変化によってもたらされる自然災害と被害の状況について理解する。					○
	60	4節 日本の自然環境と自然災害	・日本の地形・気候の特徴の理解をふまえ、自然災害の発生要因とそれが人々の生活にもたらす影響について理解する。 ・防災・減災の取り組みについて把握するとともに、自助、共助、公助の観点からその取り組みの重要性について理解する。					○
	66	5節 世界の環境問題	・地球規模で生じるさまざまな環境問題とその分布の特徴について、スケールの大小や南北問題との関わりをふまえて理解する。 ・地球温暖化や森林破壊、オゾンホール、大気汚染、砂漠化や水問題の現状の発生の背景・要因とそれによってもたらされる影響、問題解決のための国際協力の具体的な取り組みと持続可能な社会の在り方について理解する。 ・日本の環境問題の歴史的な経緯と現状をふまえた上で、問題解決のための具体的な取り組みと持続可能な社会の在り方について理解する。				○	○
		第2章 産業と資源			1h	○		
	80	1節 産業の発展と社会的分業	・産業の変遷過程、それに伴う産業の高度化とその社会的背景について理解する。 ・産業構造の変化に伴ってもたらされる産業立地や地域構造の変化の特徴について理解する。	1h	○			○

86	2節 農林水産業				
	・農業立地の成立要因について自然条件、社会条件、市場条件などとの関わりから理解する。 ・農業の成立・発展過程とその社会的背景について三つの変革との関わりから理解する。 ・現代農業の特色についてフードシステムの観点から理解するとともに、グローバル化に伴う農業地域の変容についてアメリカ、アジアを例に理解する。 ・世界の農産物流通の特徴について小麦、米、畜産物、野菜を例に理解する。 ・森林資源の分布と役割ならびに林業の現状、水産資源の分布ならびに水産物貿易・保護の現状について理解する。 ・日本の農林水産業の特徴をふまえた上で、変化をもたらす社会的背景について国内外の動向との関わりから理解する。				○
98	3節 食料問題				
	・食料の供給・生産・流通における食料問題の地域的相違について地球的視野から理解する。 ・食料増産へ向けた世界的な取り組みの現状と課題、食料不足解消に向けた国際協力の動向について理解する。 ・自給率低下、安定供給、安全性という観点から、日本の食料問題について多面的・多角的に理解する。			○	○
104	4節 エネルギーと鉱産資源				
	・暮らしを支えるエネルギーの重要性、需要の高まりによって生じる問題点について、多面的・多角的に理解する。 ・石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料の生産・消費と貿易の現状、世界における近年のエネルギー事情の動向について、多面的・多角的に理解する。 ・各種電力生産の特徴と課題への深い理解をもとに、効率的な電力供給へ向けた取り組みについて、持続可能性という観点から考察する。 ・工業発展に不可欠な金属資源の重要性とそれを取り巻く国際情勢について、鉄鉱石と非鉄金属、レアメタルそれぞれの生産・消費の動向との関わりから理解する。				○
6月	112	5節 資源・エネルギー問題			
	・化石燃料の大量消費に伴い生じる資源の枯渇や環境問題、石油戦略に関わる国際政治の動向について理解する。 ・地球の持続可能性という観点から望ましいエネルギー政策の実現へ向けた取り組みについて、多面的・多角的に理解する。 ・わが国の資源・エネルギーにおける高い輸入依存度を脱却し、自給率向上を目指す取り組みや、新たな資源開発の動向について理解する。				○
	118	6節 工業の立地と工業地域の変容			
	・工業の立地条件が複数の類型に区分できること、立地条件が時代とともに変化する背景や要因、もたらされる課題について理解する。 ・繊維・鉄鋼・石油化学を事例に、各々の工業における立地の特徴と近年の変化の動向について理解する。 ・自動車とエレクトロニクスを事例に、多国籍企業による工業立地の特徴と国際分業体制について理解する。 ・ICTの導入によって工業のスマート化が進行している現状とそれによってもたらされる諸課題について理解する。 ・グローバル化の進展によって進行している工業地域の再編とそれによってもたらされる諸課題について理解する。 ・工業の知識集約化に伴う特定地域における産業の集積とネットワーク形成の動向について理解する。 ・高度経済成長期から現在に至るまでの日本の工業の変遷と最近の動向について理解する。				○
	136	7節 第三次産業			
	・工業の立地条件が複数の類型に区分できること、立地条件が時代とともに変化する背景や要因、もたらされる課題について理解する。 ・サービス経済化の進展を支える流通産業の発達や消費者行動の変化の実態、それによって生じる小売業立地の変化について理解する。 ・情報通信業の急速な発展の背景と国内外における立地の特性について理解する。 ・医療・福祉産業拡大の背景や地域格差の実態、保育サービスに焦点を当てた国際比較の現状について理解する。				○
		第3章 交通・通信、貿易、観光	1h	○	
	142	1節 交通・通信			
	・移動手段の発展が時間距離の短縮につながり、グローバル化を促したこと、その一端を担う陸上・水陸両交通の特徴について理解する。 ・航空を含めた交通の発達がもたらす利点と問題点について多面的に理解するとともに、環境負荷を減らすための新たな交通のあり方について考察する。 ・情報通信技術の発達が高度情報化社会をもたらしたことを前提に、そのような社会が進展することによる利点と問題点について理解する。				○
	148	2節 貿易と経済連携			
	・自由貿易が促進された背景やそれに伴いもたらされた世界規模での経済連携拡大の状況について理解する。 ・現代の貿易が抱える課題について世界レベル、国内レベル各々の視点から多面的・多角的に理解する。				
	152	3節 観光			
	・観光産業発達の背景と動向、その地理的展開の特徴について、多面的・多角的に理解する。 ・時代の変化とともに観光そのものが世界規模において多様化していることをふまえ、日本における観光の変化の動向について理解する。			○	○
		第4章 人口、村落・都市			
	158	1節 人口			
	・世界の人口分布の特徴とその背景をふまえた上で、地球規模での人口増加の変遷とその要因、今後の予測について理解する。 ・人口動態の推移について理解するとともに、各国の置かれた社会状況を読み解く手段としての人口ピラミッドの有効性について知る。 ・地球規模での人口移動の変遷について歴史的背景から理解するとともに、労働者と難民を事例に人口移動の特徴とその社会的背景について知る。				○
	164	2節 人口問題			
	・発展途上国が抱える人口問題の特徴とその背景・要因、もたらされる影響についての理解をふまえ、問題解決へ向けての国際協力のあり方について考察する。 ・先進国が抱える人口問題の特徴とその背景・要因、もたらされる影響についての理解をふまえ、それらを克服するための取り組みについて考察する。	1h	○		○
	168	3節 村落・都市			
	・村落の機能と立地要因、形態の特徴や成立条件についての理解をふまえ、近年の村落の変化の状況と抱えている課題について知る。 ・都市機能の拡充過程をふまえ、都市システムが形成される背景について、その階層性との関わりから理解する。 ・近年の都市間競争の活発化により、世界都市を目指す動きが盛んであることを理解する。 ・都市の成長拡大によってその内部構造が複雑化すること、都市圏の広がりが段階的な発展をたどっていることを理解する。				○

176	4節 居住・都市問題	・発展途上国における都市化の過程とそれに伴って生じる居住・都市問題について、ジャカルタを事例に多面的・多角的に理解する。 ・先進国における都市の衰退現象に伴う問題点とそれをもたらした社会的背景、より良い居住環境の創造へ向けた取り組みについて理解する。 ・日本の都市が直面している一極集中や都市の縮退などの諸問題、解決への取り組みについて、多面的・多角的に理解する。					○
8月	第5章 生活文化、民族・宗教						
186	1節 生活文化の地域性	・文化についての定義の理解をふまえ、世界諸地域における文化の形成過程と変容過程について、多面的・多角的に理解する。 ・食文化が地域によって異なる要因や住居や衣服が地域によって異なる要因らが変容する過程について、多面的・多角的に理解する。					○
192	2節 民族・言語・宗教	・民族についての定義の理解をふまえ、言語や国家との相互関係について、多面的・多角的に理解する。 ・世界の宗教分布の特徴とその形成過程についての理解をふまえ、宗教を軸にした世界の文化的多様性について理解する。					○
196	3節 民族問題	・世界各地で生じている民族問題の背景について、国家や宗教との関わりから理解する。 ・世界各地で生じている民族紛争や難民問題が生じる社会的背景について、多面的・多角的に理解する。 ・民族紛争や難民問題の解決へ向けた取り組みと課題について、具体的事例をもとに理解する。					○
202	4節 現代の国家と領土問題	・国家の領域や国境の概念について、具体例をもとに理解する。 ・日本を含めた領土問題の発生要因への理解をふまえ、その解決策について多面的・多角的に考察する。					○
	第2編 現代世界の地誌的考察						
	第1章 現代世界の地域区分						
210	1節 地域区分の意義と方法	・さまざまな指標によって地域を区分する方法やその意義について理解する。 ・世界の諸地域の地誌的特色をとらえるための地誌的な考察方法について理解する。					○
10月	第2章 現代世界の諸地域						
216	1節 東アジア	・改革開放政策に伴って急速に進む中国の工業化とそれによる影響について理解する。 ・改革開放政策に伴いもたらされた中国の農業の近代化とその動向、都市化の現状とそれに伴い生じる諸問題について、具体的事例をもとに理解する。 ・中国国内の多様な民族構成についての理解をふまえ、経済成長に伴って変化する人々の生活、深刻化する環境問題や経済格差の現状とその取り組みについて理解する。 ・国際社会における中国の影響力について、産業面や資源獲得競争、外交政策の面から理解する。 ・経済成長に伴う韓国の産業立地の特性や地域構造の変化、それに伴って生じる経済格差やソウル一極集中の問題、解決へ向けての取り組みについて理解する。 ・工業化に伴う韓国の都市化の進展と農村における変化の様相について理解するとともに、国内の生活文化の特徴と変化の動向について理解する。					○
228	2節 東南アジア	・東南アジアの文化の多様性や共通性について言語、宗教を切り口に理解する。 ・東南アジアの地域性の特徴とそれを土台に成立した商業的農業の動向について理解する。 ・ASEANの協働体制の特徴と工業化の動向について、タイとマレーシアを事例に理解する。 ・東南アジアの経済発展による先端産業の振興の一方で、国家間、民族間、都市・農村間での格差が深刻化していることを理解する。					○
236	3節 南アジア	・南アジアにおける経済自由化や産業開発、工業化の進展について、グローバル化に伴う経済発展との関わりから理解する。 ・経済成長や都市化に伴うインド社会の変化について、メリットとデメリットに区分しながら理解する。 ・インドにおける人口急増、農業の発展、農村社会の変化の背景について、多面的・多角的に理解する。 ・南アジア世界の多様性と共通性について文化を指標に理解するとともに、地域間協力の現状について、具体的事例をもとに理解する。					○
244	4節 西アジアと中央アジア	・シルクロードにおける交易を中心に発展していった西アジアと中央アジアの歴史的経緯をふまえ、両地域における人々の生活の特徴について、農業を軸に理解する。 ・西アジアと中央アジアの共通点と相違点について、生活文化と宗教、資源開発と産業を指標に理解する。					○
250	5節 北アフリカとサハラ以南アフリカ	・北アフリカとサハラ以南アフリカの共通点と相違点について歴史、生業と文化、経済、産業を指標に理解する。 ・北アフリカとサハラ以南アフリカ諸国における発展の状況や他地域との結びつきについて理解する。					○
11月	256	6節 ヨーロッパ	・ヨーロッパ統合が進む背景について民族と宗教との関わりから理解するとともに、統合へ向けての歴史的変遷について知る。 ・ヨーロッパにおける農業の多様性と現状についての理解をふまえ、EUの共通農業政策の特徴とそれがもたらした課題と見直しの動きについて知る。 ・ヨーロッパにおける産業の変容について、工業の多極化、サービス経済化を指標に理解する。 ・EUの東方拡大の背景とそれによりもたらされている課題について理解し、地域格差の問題について知る。 ・イギリスのEU離脱を切り口に、EUが抱えている諸課題についての理解をふまえ、その克服へ向けた国家間の協力関係について考察する。				○
266	7節 ロシア	・国内の多様な民族、宗教についての認識をふまえ、国内における民族問題や周辺諸国との間に抱える領土問題について理解する。 ・市場経済への移行に伴う経済、社会、人々の暮らしにおける変化の動向について理解する。 ・農業、鉱工業地域の分布の特徴についての理解をふまえ、近年の産業地域の変化とそれに伴い生じている地域格差の問題について知る。					○

272	8節	アングロアメリカ					
・自然環境の多様性とそれによって形成される農業地帯の特色について理解する。 ・特色である多民族・多文化社会の形成過程について、歴史的背景をふまえて理解する。 ・経済が世界最大と位置づけられる社会的背景について、先端技術、金融、鉱産資源の側面から理解するとともに、課題について知る。 ・鉱工業地域の変化について、先端技術産業の発展との関わりから理解する。 ・情報社会と就業構造の変化に伴う大都市圏の拡大と変容の様相について、多面的・多角的に理解する。							○
282	9節	ラテンアメリカ					
・文化の形成の経緯について、歴史的背景をふまえながら理解する。 ・産業の発達の変遷について、農業、工業の両面から理解するとともに、グローバル化と地域統合が進む現状について知る。 ・開発や都市化の現状とその進展によって生じる諸課題について認識を深めるとともに、同地域の移民社会としての特徴についても多面的・多角的に理解する。							○
288	10節	オセアニア					
・多文化社会の形成過程について、先住民族、ヨーロッパ移民、アジア系移民との関わりから理解する。 ・鉱産資源や農業の特徴や位置づけとその重要性について、多面的・多角的に理解する。 ・環太平洋地域との経済的な結びつきについて、貿易と観光に着目して理解する。 ・北極と南極それぞれの地理的特徴について理解するとともに、近年の動向について国際社会との関わりから知る。							○
第3編 現代世界と日本の国土像							
第1章 持続可能な国土像の探究							
298	1節	日本の地理的諸課題を読み解く					
・現代の地域構造の特徴によって生じている地理的諸課題について知る。 ・今後の国土づくりのあり方について、国内における地理的諸課題の現状をふまえて考察する。							○
302	2節	持続可能な国土像の探究					
・日本が抱える地理的諸課題の解決と持続可能な国土形成の方策の探究に向けて、課題探究のプロセスを理解する。							

教科	地理歴史	履修年次	1年次
科目名	歴史総合	使用教科書	17-110203002002-901
単位数	2単位		歴史総合
学習目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
4月	5	序章	歴史の扉					
	6	1節	歴史と私たち	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。				
	10	2節	歴史の特質と資料		1h	○		
	22		・日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が「叙述されていることを理解する。					○
		第1章	近代化と私たち					
	23	1節	近代化への問い	・資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察する。				
	28	2節	アジアの繁栄と西洋近代の形成	・18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・政治や経済の変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、世界市場の形成や近代社会の形成を理解する。				○
6月	48	3節	世界の一体化と多様な近代化	・アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、工業化や立憲制の世界的な広まりを理解する。 ・帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。				○
	80	4節	近代化と現代的な諸課題					
	82		・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。					
		第2章	国際秩序の変化や大衆化と私たち					
	83	1節	国際秩序の変化や大衆化への問い	・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察する。				
	88	2節	第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。				○
8月	108	3節	経済危機と第二次世界大戦	・各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。			○	○
	136	4節	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題					
	138		・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。	1h	○			

10月	第3章 グローバル化と私たち				
139	1節 グローバル化への問い				
	・グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察する。				
144	2節 冷戦と世界経済				
	・地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソビエト連邦の政策転換などを多面的・多角的に考察し、国際政治の変容を理解する。 ・冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。			○	○
166	3節 世界秩序と変容と日本				
	・市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、市場経済の変容と課題を理解する。 ・冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。				○
192	4節 現代的な諸課題と形成と展望				
	・歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。				

教科	地理歴史	履修年次	2年次
科目名	日本史探究	使用教科書	17-110204002701
単位数	3単位		日本史探究
学習目標	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情を育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
4月	7	第1編	先史・古代の日本と東アジア					
	8	第1章	先史社会の生活と文化					○
				・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、先史社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察する。				
	18	第2章	歴史資料と先史・古代の展望					
				・資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から先史・古代の特色についての仮説を表現することを通じて、見通しをもって学ぶ。				
		第3章	古代社会の形成と展開					
				・資料を扱う技能を活用し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示す。				
	24	1節	律令国家の形成と古代文化の展開					○
				・先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。				
	50	2節	摂関政治と貴族文化					○
				・律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。				
6月	65	第2編	中世の日本と世界					
	66	第1章	中世社会の成立					○
				・院政期から武家政権成立期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、中世の特色について多面的・多角的に考察する。				
	74	第2章	歴史資料と中世の展望					
				・資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から中世の特色についての仮説を表現することを通して見通す。				
		第3章	中世社会の展開					
				・事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示す。				
	80	1節	武家政権の成立と朝廷					○
				・武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。				
	98	2節	武家支配の広がりと国際交流					○
				・地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。				
	123	第3編	近世の日本と世界					
	124	第1章	近世社会の形成					○
				・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する。				
	134	第2章	歴史資料と近世の展望					
				・資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近世の特色についての仮説を表現することを通して見通す。				
8月		第3章	近世社会の展開					
				・事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示す。				
	140	1節	幕藩体制の確立					○
				・幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。				
	166	2節	近世社会の成熟と幕藩体制の動揺					○
				・幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。				
10月	187	第4編	近現代の地域・日本と世界					
	188	第1章	近代社会の幕開け		2h	○		○
				・幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する。				

198	第2章 歴史資料と近現代の展望				
	・資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近代の特色についての仮説を表現することを通して見通す。				
	第3章 近現代社会の展開				
	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示す。				
204	1節 近代的制度の導入と新しい国際関係				
	・近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解する。			○	○
218	2節 国民国家と資本主義の成立				
	・立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解する。			○	○
240	3節 両大戦間期の日本				
	・大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解する。			○	○
264	4節 第二次世界大戦と日本				
	・第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。				○
12月 270	5節 占領と改革				
	・我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解する。				○
280	6節 国際社会への復帰と高度経済成長				
	・我が国の再出発後の政治・経済や対外関係を理解する。				○
292	7節 アジア情勢の変化と経済大国日本				
	・現代の政治や社会の枠組みを理解する。				○
300	8節 新しい国際秩序と日本の課題				
	・現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。				○
308	第4章 現代の日本の課題の探究				
	・現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察する。	2h	○		

教科	公民	履修年次	1年次
科目名	公共	使用教科書	17-110301002002-901
単位数	2単位		公共
学習目標	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想する能力を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		第1部	公共のとびら					
4月		第1章	青年期を生きる私たち					
	10	1	青年期における自己形成	・青年期の特徴やアイデンティティの確立などについて理解する。 ・青年期に生きる自己形成の課題について考察する。				○
	12	2	キャリア開発と社会参画	・現代社会を生きるうえでの課題や、キャリア開発の意義などについて理解する。 ・キャリア開発や社会参画の視点から、シティズンシップの意義について考察する。				
		第2章	他者とともに生きる人間としてのあり方					
	14	3	個人として尊重しあう人間	・自己の幸福の追求と他者とのかかわりについて考え、幸福追求が個人の尊重に帰着することを理解する。 ・カントの「自律的な人格」やJ.S.ミルの「他者危害原理」について理解し、人間を個人として尊重することの意味について多面的・多角的に考察する。				○
	16	4	公共的な空間をつくる人間	・公共的な空間について理解するとともに、アーレントの「活動」やハーバーマスの「コミュニケーション的理性」の意義について理解する。 ・和辻哲郎の「間柄」について理解し、公共的な空間における意義について考察する。				○
	18	5	伝統・文化のなかで生きる人間	・丸山真男の考え方などを手がかりに、伝統・文化がものの見方に影響をあたえていることを知る。 ・柳田国男の考え方などを手がかりに、日本の「公」と「私」についての伝統的な考え方について考察する。				○
		第3章	公共的な空間における倫理					
	22	6	功利主義と幸福の原理	・行為選択の理由づけについて目的論と義務論の考え方があること、また、目的論にかかわって功利主義と徳倫理学の考え方を理解する。 ・先人の思想を手がかりに、課題解決の方法について考察する。				○
	24	7	義務論と公正の原理	・義務論について、カントの「道徳法則」や「自律」の意味を中心に理解する。 ・不公正の是正について、ロールズの「公正としての正義」の考え方やセンの「潜在能力」の考え方を理解する。				○
		第4章	公共的な空間における基本原理					
	36	8	公共的な空間における協働	・社会において利害調整が必要であることや、協働の利益をそこう「囚人のジレンマ」を回避することが必要であることを理解する。 ・利害調整の方法としての市場の働きと国家の役割について理解するとともに、それぞれの課題について考察する。				
	40	9	民主主義の原理	・政治の方法である民主主義について、国民主権の観点から理解する。 ・民主主義における多数決の意義と課題、熟議の意義を理解するとともに、間接民主制と直接民主制を組みあわせる意義について考察する。				○

42	10 立憲主義の原理	・法の支配や立憲主義の成立と意義などについて、市民革命と関連づけて理解する。 ・民主主義における憲法の役割について、違憲審査や憲法改正手続きに着目して考察する。				
44	11 人権保障の原理	・基本的人権の意味や、自由権から社会権、「新しい人権」にいたる人権保障の歴史的発展を理解する。 ・人権保障の広がりにとれない、人種差別・女性差別・障がい者差別の撤廃や、子どもの権利の確立などの取り組みが進められてきたことを理解する。				
46	12 日本国憲法の理念	・日本国憲法の三つの基本原理について、理解する。 ・日本国憲法における立憲主義と権力分立の意義や、最高法規としての憲法のあり方などについて理解する。				○
6月	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち					
	第1章 民主政治と私たち					
	テーマ1 民主政治と政治参加					
60	13 私たちの民主政治	・身近に存在する政治に気づくとともに、民主主義にかかわる制度や活動について理解する。 ・現代の民主主義の課題について、20世紀の歴史をふまえて考察する。			○	○
62	14 地方自治のしくみと役割	・地方自治の本旨としくみなどについて、理解する。 ・地方財政のしくみと課題、住民参加の意義について考察する。				○
68	15 国会のしくみと役割	・三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営などについて、理解する。 ・国会における実際の政治の現状と課題について考察する。				○
70	16 内閣のしくみと役割	・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革などについて、理解する。 ・国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察する。				○
72	17 政治参加と選挙	・政治参加の方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題などについて、理解する。 ・有権者の意思をよりよく反映するという観点から、日本の選挙制度について考察する。				○
74	18 政党と利益集団	・民主政治における政党、利益集団、NPOの役割などについて、理解する。 ・政治資金にかかわる課題について、考察する。				
76	19 メディアと世論	・民主主義における世論の意義、メディアの世論への影響、インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて、理解する。 ・世論形成におよぼすメディアの役割や、正しい情報にもとづく合理的な判断の重要性について考察する。				○
	第2章 法の働きと私たち					
	テーマ2 法や規範の意義と役割					
88	20 法と社会規範の役割	・社会規範としての道徳と法の違いなどについて、理解する。 ・法の機能や分類について、理解する。				○
90	21 法の成立と適用	・法を制定する際にふまえるべき条件、法の適用と解釈などについて、理解する。 ・民事裁判と刑事裁判の手続きの特色について、両者を比較して考察する。				○
	テーマ3 市民生活と私法					
96	22 私法の原則	・私法の三つの原則、契約における意思能力および行為能力、未成年者の契約に関する原則、故意や過失による不法行為への責任などについて、理解する。 ・私法の三つの原則が公共の福祉や公序良俗の点から制限されることについて考察する。				○
100	23 多様な契約	・契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて、理解する。 ・契約の種類とその特色、契約自由の原則の修正が必要な理由について考察する。				○
102	24 消費者の権利と責任	・消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会の形成などについて、理解する。 ・消費者法制が消費者の権利の尊重および自立支援をめざしていることについて、考察する。				○
8月	テーマ4 国民の司法参加		1h	○		
108	25 司法のしくみと役割	・司法権の独立の意義、三審制などの裁判制度のしくみ、違憲審査権などについて、理解する。 ・司法権の独立や三審制の意義、違憲審査権と人権保障とのかわりについて考察する。				○
110	26 刑事司法と司法参加の意義	・刑事司法のしくみや原則、刑事司法の課題、裁判員制度や検察審査会制度などについて、理解する。 ・刑事司法の課題や、司法への民意の反映の意義と課題について考察する。				○
	第3章 経済社会で生きる私たち					
	テーマ5 現代の経済と市場					
118	27 私たちと経済	・経済活動の意義、経済主体と経済循環、経済活動のグローバル化などについて、理解する。 ・家計・企業・政府の相互関係と経済循環について、考察する。				
120	28 現代の企業	・企業の種類や活動、株式会社のしくみ、企業の社会的責任などについて、理解する。 ・株式会社が発達した理由や、企業の社会的責任が求められる背景について考察する。				○

122	29	市場経済のしくみ							
		・市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割などについて、理解する。 ・市場メカニズムの意義や限界と、政府の役割が求められることとの関係について考察する。							○
126	30	国民所得と経済成長							
		・経済活動の大きさを示すさまざまな指標、経済成長とその要因、景気変動と物価などについて、理解する。 ・景気変動や物価の変動が人々の生活におよぼす影響について考察する。							○
10月		テーマ6 市場経済における金融の働き							
134	31	金融のしくみと働き							
		・貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融市場と金利などについて、理解する。 ・金融が現在の経済において果たす役割について考察する。							○
136	32	中央銀行の役割と金融環境の変化							
		・中央銀行の役割と金融政策などについて、理解する。 ・金融政策の近年の動向、金融の自由化および金融商品の多様化の動きとその課題について考察する。							○
		テーマ7 財政の役割と持続可能な社会保障制度							
142	33	財政の働き							
		・財政の機能と財政政策、財政のしくみと租税法律主義などについて、理解する。 ・財政を通じて経済政策や福祉政策などが行われていることを理解する。							○
144	34	財政の課題							
		・租税の種類と課税の原則、国債の役割、財政問題などについて、理解する。 ・財政問題の解決の方向性について、考察する。							○
146	35	社会保障の考え方							
		・社会保障の意義と歴史、日本の社会保障制度などについて、理解する。 ・社会保障制度の意義について、多面的・多角的に考察する。							○
148	36	社会保障の課題とこれから							
		・少子高齢化の進展、社会保障制度の現状と課題、福祉社会の実現に向けた課題などについて、理解する。 ・今後の社会保障制度のあり方について、考察する。							○
		第4章 私たちの職業生活			ih	○			
		テーマ8 働くことの意義と職業選択							
154	37	働くということ							
		・働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割などについて、理解する。 ・産業社会の変化にともなう職業や労働の変化について、その課題も含めて考察する。							○ ○
156	38	多様な職業選択							
		・職業選択のポイント、キャリア選択の多様化、キャリア形成の課題などについて、理解する。 ・これからの職業選択とキャリア形成の課題について考察する。							○
11月		テーマ9 労働者の権利と雇用・労働問題							
160	39	労働者の権利							
		・資本主義経済における労働、労働者の権利と労働三法などについて、理解する。 ・労働者の権利保障の必要性について、労働契約の特性をふまえて考察する。							○
162	40	現代の雇用・労働問題							
		・雇用環境の変化、現代の労働問題、働きやすい労働環境の実現などについて、理解する。 ・仕事と家庭生活の両立、男女格差の解消、安定した雇用などに関する課題とその解決について考察する。							○
		第5章 国際社会のなかで生きる私たち							
		テーマ10 国際社会のルールとしくみ							
166	41	国際社会の成り立ち							
		・国際社会の成立と特色、国際法の意義、国際社会の変容などについて、理解する。 ・国家間で問題が生じる背景や、外交や国際法の意義について、多面的・多角的に考察する。							○
170	42	国際連合の役割							
		・集団安全保障としての国際連合の成立としくみ、国際連合の役割と課題などについて理解する。 ・国際連合が安全保障に果たす役割と課題について考察する。							○
		テーマ11 国際社会と平和主義							
174	43	日本の平和主義と冷戦							
		・平和主義と日本国憲法第9条、自衛隊と日米安全保障条約、戦後日本の防衛政策などについて、理解する。 ・日本の防衛政策の変遷について考察する。							○
176	44	冷戦後の世界と日本							
		・冷戦後の世界と日本の安全保障政策、自衛隊の海外派遣などについて、理解する。 ・日本の安全保障の背景にある国際関係の変化や、今後の安全保障の課題について考察する。							○
		テーマ12 国際平和への課題							
182	45	現代の紛争とその影響							
		・現代の紛争とその要因、紛争解決に向けた取り組み、難民問題などについて、理解する。 ・紛争や難民問題の解決に向けて、国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解する。							○
184	46	平和な国際社会に向けて							
		・平和の意味、外交を通じた平和の実現、日本の国際貢献について、実際の事象と関連づけて理解する。 ・平和憲法をもつ日本は国際平和に向けて何をなすべきか、多面的・多角的に考察する。							○
		テーマ13 グローバル化する国際経済							
190	47	貿易のしくみ							
		・自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進、国際収支の意味などについて、理解する。 ・リカードの比較生産費説の概要、国際収支からわかる経済状況について、理解する。							○
192	48	国際金融のしくみと動向							
		・為替のしくみと外国為替市場、国際通貨体制の変容、国際金融の動向などについて、理解する。 ・為替レートの変動が貿易や金融、人々の生活におよぼす影響について考察する。							○

196	49	グローバル化と今日の国際経済					
		・現在の国際経済秩序、地域統合の歴史と現在、新興国の台頭などについて、理解する。 ・国際経済秩序や地域統合の背景には、経済だけでなく政治的な要因もあることを理解する。					○
198	50	国際経済の諸課題					
		・南北問題とその背景、人口・食料問題、格差是正の取り組みなどについて、理解する。 ・南北問題や人口・食料問題の解決に向けた取り組みについて考察する。					○

教科	公民	履修年次	2年次
科目名	倫理	使用教科書	17-110302002701
単位数	2単位		倫理
学習目標	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		第1編	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方					
4月	8	第1章	人間の心のあり方					
	10	1節	人間とは何か					
			・人間の定義について考えた上で、パスカルの言葉を手掛かりに「考えること」の意義について考察する。 ・人生における青年期の位置づけや特徴、現代社会におけるその特質について考察する。				○	○
	13	2節	人間の心の働き					
			・他者と共によりよく生きる意思決定のあり方について考察し、豊かな自己形成に努める意欲を高める。 ・他者と共によりよく生きることができるよう、自己や他者の個性について考察し、豊かな自己形成に努める意欲を高める。 ・人間の心の発達がどのようにして他者との相互作用の中で育っていくのかについて考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高める。				○	○
	24	第2章	さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ					
	26	1節	哲学すること					
			・さまざまな人生観・倫理観・世界観の学習に先立って、「哲学」の意味や、「哲学すること」の意義について理解する。					○
	28	2節	ギリシャの思想					
			・ギリシャにおける哲学の誕生について、その歴史的背景をふまえて理解する。	1h	○			○
6月	43	3節	宗教と社会					
			・人生における宗教の意義や、宗教が人間や社会に与えた影響について、先哲の考え方や歴史的な事実を手がかりにして多面的・多角的に理解する。					
	45	4節	キリスト教					
			・キリスト教の成立に影響を与えた古代ユダヤ教の特徴や『旧約聖書』に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に理解する。					○
	54	5節	イスラーム					
			・イスラームの誕生について、ムハンマドの生涯や歴史的背景をふまえて理解する。					○
	58	6節	仏教					
			・仏教の成立に影響を与えたバラモン教の特徴、ウパニシャッド哲学やジャイナ教に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に理解する。					○
	67	7節	中国の思想					
			・孔子の思想に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に理解する。					○
	75	8節	芸術					
			・芸術家の考え方や生き方、作品を手がかりにして多面的・多角的に理解する。					
	82	第3章	さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ					
	84	1節	近代と人間尊重の精神					
			・ルネサンスや宗教改革、近代科学の諸思想について多面的・多角的に理解する。					○
	91	2節	近代思想の展開					
			・現代の価値観に影響を与えたベーコンとデカルトの思想について、両者の共通点と相違点に留意しつつ多面的・多角的に理解する。					○
	100	3節	人格の尊厳と人倫の思想					
			・カントの批判哲学、認識論、道徳思想、人格の尊厳の思想、理想的な社会の構想について多面的・多角的に理解する。					○
8月	107	4節	社会変革の思想					
			・アダム・スミス、ベンサム、J.S.ミルの倫理思想について、現代の社会生活と関連付けながら多面的・多角的に理解する。					○
	116	5節	理性への疑念					
			・キルケゴール、ニーチェ、フロイトの思想を手がかりに、近代の人間観や世界観がどのように変容したかについて多面的・多角的に理解する。					○
	121	6節	人間観・言語観の問いなおし					
			・ハイデッガー、ヤスパーズ、サルトルの思想や、現象学、実存主義の考え方を手がかりに、従来の人間観や世界観の問いなおしについて多面的・多角的に理解する。					○
10月	132	7節	他者・自然とのかかわり					
			・他者とかかわりや言語活動について、レヴィナス、ベンヤミン、アーレント、フランクフルト学派、ウィトゲンシュタインの考え方を手がかりに多面的・多角的に理解する。	1h	○			○

148	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚				
150	1節 日本人の精神風土				
	・「おのづから」の働きや、『古事記』・和辻哲郎の著作などの記述に着目しながら、自己との関わりにおいて多面的・多角的に理解する。			○	○
157	2節 仏教と日本人の思想形成				
	・古来の自然や神に対する信仰との共存・重層という観点から多面的・多角的に理解する。			○	○
169	3節 儒教と日本人の思想形成				
	・中国の儒教や日本の仏教の思想傾向と比較しながら自己との関わりにおいて多面的・多角的に理解する。			○	○
175	4節 国学の思想				
	・儒教や仏教の思想傾向と比較しながら、自己との関わりにおいて多面的・多角的に理解する。				○
177	5節 庶民の思想				
	・現代の国際社会に生きる自己との関わりにおいて多面的・多角的に理解する。				○
183	6節 西洋思想と日本人の近代化				
	・国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に理解する。				○
199	7節 国際社会に生きる日本人の自覚				
	・現代において自覚的に受けつづべきものや、今後問いなおすべき課題について、多面的・多角的に理解する。				○
206	第2編 現代の諸課題と倫理	1h	○		
208	1節 生命				
	・生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、「生きることの意義」について思索する。				○
12月 213	2節 自然				
	・人間の生命が自然の生態系の中で、植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、調和的な共存関係が大切であることについて思索する。				○
218	3節 科学技術				
	・近年の飛躍的な情報技術の進展を踏まえ、AIをはじめとした先端科学技術の利用と人間生活や社会の在り方について思索する。				○
223	4節 福祉				
	・協働、ケア、共生の視点から、だれにとっても住みやすい社会について思索する。				
227	5節 文化と宗教				
	・文化や宗教が過去を継承する人類の知的遺産であることを踏まえ、それらを尊重し、異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索する。				○
231	6節 戦争と平和				
	・人類全体の福祉の向上という視点から、平和な世界の実現について、考察、構想する。				

教科	公民	履修年次	3年次
科目名	政治・経済	使用教科書	17-110303002701
単位数	2単位		政治・経済
学習目標	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図る自覚を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		第Ⅰ編	現代日本の政治と経済					
4月	4	第Ⅰ章	現代日本の政治					
	6	Ⅰ節	民主政治の基本原則	- 政治の役割や、社会契約説における政府と国民との関係性について理解する。 - 民主政治にとって権力分立がなぜ重要か理解する。 - 法の意義や、「法の支配」が民主主義に不可欠であることについて理解する。 - 私法に関する基本的な考え方を踏まえ、法が自分の生活にどのように関係しているか理解する。 - 成年年齢が変更された背景について理解する。 - 成年を迎えたらどのような点に留意する必要があるか理解する。 - 基本的人権が確立した過程と人権保障の歴史的展開について理解する。 - 人権の国際化のなかで、日本の人権保障はどうあるべきか理解する。 - ファシズムが生み出された背景や、多数決原理にもとづく民主政治の課題について理解する。 - よりよい民主政治のあり方について理解する。 - 議院内閣制と大統領制の違いや、旧社会主義圏や旧植民地諸国における政治体制について理解する。 - 民主政治の諸原理が各国の政治体制にどのように反映されているか理解する。				○
	26	Ⅱ節	日本国憲法の基本原則	- 大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解する。 - 憲法改正に関する議論について理解する。 - 基本的人権と自分の生活との関係、「新しい人権」の確立が求められている背景について理解する。 「公共の福祉」はどのような場合に適用されるべきか理解する。 - 憲法第9条をめぐる意見の対立や、日本の安全保障体制の変化について理解する。 - 平和主義の下、今後の日本の安全保障はどうあるべきか理解する。	1h	○		○
	48	Ⅲ節	日本の政治機構	- 国会の権限や組織、運営について理解する。 - 日本の国会にはどのような課題があり、それをどのように解決すべきか理解する。 - 内閣の権限や内閣と国会の関係について理解する。 - 日本の行政にはどのような課題があり、それをどのように解決すべきか理解する。 - 司法権の独立性の必要性や裁判のしくみ、裁判員制度について理解する。 - 日本の司法にはどのような課題があり、それをどのように解決すべきか理解する。 - 憲法における地方自治の規定や、地方自治における住民の権利について理解する。 - 日本の地方自治にはどのような課題があり、それをどのように解決すべきか理解する。				○ ○

66	4節 現代政治の特質と課題	・議会制民主主義において政党が必要な理由や、戦後日本の政党政治の変遷について理解する。 ・現代の日本の政党政治にはどのような課題があるか理解する。 ・日本の選挙制度の特徴や選挙の課題について理解する。 ・日本の選挙における低投票率を改善するにはどうすればよいか理解する。 ・世論の形成過程、世論の政治への反映のしかた、NPOやインターネットが政治に与える影響について理解する。 ・日本の政治における争点や政治的意見を踏まえ、自分が賛同する政治的立場について理解する。 ・選挙権年齢引き下げの背景や選挙権を行使する意味について理解する。 ・選挙権の行使に向けて、政党や候補者の主張をどのように検討すべきか理解する。					○
6月	第2章 現代日本の経済						
82	1節 現代の資本主義経済	・希少性やトレードオフなど経済活動の基本原則について理解する。 ・経済体制にはどのようなものがあるか理解する。 ・資本主義経済と社会主義経済の成立と発展について理解する。 ・今日の資本主義経済にはどのような課題があるか理解する。					○
90	2節 現代経済のしくみ	・家計および企業の経済活動や、各経済主体の相互関係について理解する。 ・なぜ経済は循環するのか理解する。 ・企業の活動や、株式会社の特徴について理解する。 ・現代の企業に求められているものは何か理解する。 ・市場における価格の役割や、独占禁止法による規制の必要性について理解する。 ・市場は必ずしも万能ではないといわれる理由について理解する。 ・経済活動の規模や変化をとらえる指標や、景気変動のしくみについて理解する。 ・インフレーションやデフレーションが国民生活にどのような影響を与えるか理解する。 ・金融の役割や、金融政策の手段について理解する。 ・なぜ金融の自由化が進められ、それは日本経済にどのような影響を与えたか理解する。 ・自分のライフプランを立て、それをもとにどの時期にどの程度の資金が必要か理解する。 ・金融商品を購入する際にリスクとリターンをのどちらを重視すべきか理解する。 ・財政の役割や、公平な税制のあり方について理解する。 ・日本の財政の課題を抱える課題や、持続可能な財政および租税のあり方について理解する。				○	○
8月	119 3節 日本経済の発展と現状	・戦後復興から高度経済成長の終焉までの日本経済の変遷と産業構造の変化について理解する。 ・バブル経済が発生した理由と終わりを迎えた理由について理解する。 ・バブル経済崩壊後の日本経済の状況や、2000年代以降に試みられた経済政策が日本社会に与えた影響について理解する。 ・日本経済が抱える課題を解決するにはどうすればよいか理解する。					○
128	4節 福祉社会と日本経済の課題	・公害問題が発生する理由や、公害を防止する方法について理解する。 ・持続可能な社会の形成のために自分たちができることは何か理解する。 ・戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解する。 ・これからの日本の農業と食料はどうあるべきか理解する。 ・日本経済における中小企業の地位や、日本の中小企業が抱える課題について理解する。 ・日本経済の活性化のためにどのような中小企業政策が必要か理解する。 ・情報化の進展が社会にもたらしているイノベーションや、「第四次産業革命」が社会生活にもたらす変化について理解する。 ・デジタル社会においてどのようなことに注意すべきか理解する。 ・消費者問題が発生する理由や、消費者保護のために行われている施策について理解する。 ・消費社会において、自分たち消費者にはどのような知識や行動が求められるか理解する。 ・契約を結ぶ際に気をつけるべきことや、消費者トラブルにあった際の対応について理解する。 ・持続可能な社会の形成のために消費生活でできることは何か理解する。 ・労働問題が発生する理由や、憲法や労働三法が保障する労働者の権利について理解する。 ・雇用・労働問題を取り巻く状況と、これからの日本の雇用のあり方について理解する。 ・自分に合った働き方を実現するためにはどのようなことに考慮すべきか理解する。 ・社会全体の労働条件を向上させるにはどうすればよいか理解する。 ・社会保障制度の発展と変化や、日本の社会保障制度の特徴と課題について理解する。 ・少子高齢社会においてどのような福祉社会を築いていけばよいか理解する。					○
10月	156 第3章 現代日本の諸課題	・日本の子育て支援の現状について理解する。 ・少子高齢社会における子育て支援はどうあるべきか理解する。 ・地域社会の現状について理解する。 ・地域社会の独自性を活かしながら活性化を図るにはどうすべきか理解する。 ・労働におけるジェンダー平等の現状について理解する。 ・性別にかかわらず働きやすい労働環境はどうすれば実現できるか理解する。 ・日本の中小企業の強みと課題について理解する。 ・中小企業の強みを活かすにはどうすればよいか理解する。 ・日本の財政の現状について理解する。 ・日本はどのような「福祉国家」をめざすべきか理解する。 ・日本の農業の動向について理解する。 ・農業を魅力ある産業にするにはどうすればよいか理解する。 ・日本が直面する災害とその対策の現状について理解する。 ・自分が暮らす地域の防災・減災対策はどうあるべきか理解する。					○
	第2編 グローバル化する国際社会						
172	第1章 現代の国際政治						
174	1節 国際政治のしくみ	・主権国家と国際社会の形成過程や、国際社会の特徴について理解する。 ・現代の国際社会には主権国家以外にどのような主体があるか理解する。 ・国際社会の秩序維持の要因や、国内法と比較した国際法の特徴について理解する。 ・国際司法機関がどのような役割を果たしているか理解する。 ・集団安全保障のしくみが必要とされた背景や、平和と安全を維持するための国際連合の取り組みについて理解する。 ・国際連合が抱える課題について理解する。					○

182	2節 複雑化する国際政治と日本				
11月	・第二次世界大戦後の国際関係や、冷戦体制の変化について理解する。 ・日本はどのようにして国際社会に復帰し、どのような立場で行動してきたか理解する。 ・冷戦終結後の国際関係の変化や、現在の国際社会が抱える課題について理解する。 ・日本は国際平和や安全保障のためにどのように行動していくべきか理解する。 ・世界で地域主義が進んでいる理由や、EUの成立過程および特徴について理解する。 ・地域主義の動きに日本はどのように関わっているか理解する。 ・核抑止体制の問題点や、軍縮をめぐる現在の動向について理解する。 ・日本は唯一の核兵器被爆国として、軍縮に向けてどのように取り組むべきか理解する。 ・近年、国境を越えたテロリズムが多発している理由について理解する。 ・地域紛争を予防し解決するためにはどうすればよいか、また日本は難民問題に対してどのように向き合うべきか理解する。 ・日本の外交や安全保障が直面している課題や、今日の国際社会において日本に求められている役割について理解する。 ・日本の国際協力や開発援助はどうあるべきか理解する。	1h	○		○
204	第2章 現代の国際経済				
206	1節 国民経済と国際経済				
	・貿易の意義や、国際収支の各項目に反映される経済取り引きについて理解する。 ・為替レートがどのような要因によって変動するか理解する。 ・現代の国際通貨体制の変遷や、近年経済政策の分野で各国の政策協調が必要になっている理由について理解する。 ・地域経済統合やFTA・EPAが自由貿易の進展にどのような影響を与えるか理解する。 ・南北問題の解消に向けた国際社会の取り組みや、新興経済諸国の現状について理解する。 ・中国の台頭によって世界経済にはどのような変化が起きているか理解する。				○
220	2節 世界経済の現状と課題				
	・経済のグローバル化の進展や、近年の国際金融の変化について理解する。 ・現在の世界経済はどのような課題を抱えているか理解する。 ・地球環境問題や、地球環境問題への対応をめぐる国際社会の利害対立について理解する。 ・脱炭素社会の構築に向けて各国政府や自分にはどのような取り組みができるか理解する。 ・資源・エネルギーに関する課題や、原子力発電に関する日本および各国の政策について理解する。 ・日本のこれからのエネルギー供給はどうあるべきか理解する。 ・21世紀の世界人口の変動予想や、貧困の発生要因について理解する。 ・持続可能な社会の形成に向けて国際社会はどのように取り組むべきか理解する。				○
236	第3章 国際社会の諸課題				
	・日本の多文化共生をめぐる状況について理解する。 ・多文化共生社会を実現するにはどうすればよいか理解する。 ・地球温暖化とその対策の現状について理解する。 ・地球温暖化を食い止めるにはどうすればよいか理解する。 ・貧困と開発援助の現状について理解する。 ・貧困削減のためにはどのような開発援助が有効か理解する。 ・医療のイノベーションの現状について理解する。 ・医療のイノベーションを促すにはどうすればよいか理解する。 ・パレスチナ問題の経緯と現状について理解する。 ・パレスチナ問題を解決するために何が必要か理解する。 ・SDGsの達成に向けた取り組みの現状について理解する。 ・SDGsの達成に向けて自分たちに何ができるか理解する。	1h	○		○

教科	数学	履修年次	1年次
科目名	数学 I	使用教科書	17-110401002002-905、17-110401002002-906
単位数	3単位	改訂版	新数学 I、改訂版 新数学 I 解答編
学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
	4	1	整数の計算					
	12	2	小数・分数の計算					
	19	3	計算の利用					
	24	4	正負の数の計算					
4月	31	1章	数と式					
	32	1節	文字と式	・文字を使った式の表し方の約束を確認し、正しく文字式を扱うことができる。 ・式についての用語の意味を理解し、多項式を整理する中で、式についての視野を広げる。 ・多項式と数のかけ算、多項式の加法・減法の仕組みを理解し、それらの計算ができる。 ・指数法則、単項式の乗法について理解し、さらに分配法則を用いて多項式を展開することができる。 ・乗法公式について理解し、乗法公式が利用できる。 ・分配法則や乗法公式を逆に用いて因数分解することについて理解し、因数分解の公式が利用できる。 ・$\times 2$乗の係数が1以外の多項式を因数分解することができる。 ・式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど、見通しをもって多項式を展開、因数分解することができる。			○	○
	48	2節	実数	・平方根について理解する。 ・根号を含む式の基本的な計算ができる。 ・自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解して、それらを区別できる。 ・有限小数、循環小数について理解し、有限小数になる分数を判断できる。				○

58	3節 方程式と不等式	・1次方程式を解くことができる。 ・不等号の意味を理解し、数量の大小関係を不等式で表すことができる。 ・不等式を調べることによって、不等式の性質を理解する。 ・不等式の解の意味を理解し、不等式の性質を用いて不等式を解くことができる。 ・不等式の性質を用いて不等式を変形し、解くことができる。 ・2次方程式について理解し、平方根の考え、因数分解を用いて2次方程式を解くことができる。 ・解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。	1h	○		○
6月	73 2章 2次関数					
74	1節 2次関数とそのグラフ	・変化する2つの変数の関係を表す方法として、関数の概念を理解する。 ・1次関数のグラフの変化の様子を捉えることができる。 ・2次関数のグラフの特徴を理解し、2次関数のグラフを捉えることができる。 ・関数$y=ax^2$のグラフをx軸方向やy軸方向に平行移動したグラフを理解することができる。 ・2次関数$y=ax^2+bx+c$を$y=a(x-p)^2+q$の形に変形し、軸と頂点からそのグラフを求めることができる。				○
92	2節 2次関数の値の変化	・2次関数の最大値・最小値についてグラフを利用して理解し、それらの値を求めることができる。 ・2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し、グラフとx軸の共有点のx座標を求めることができる。 ・2次関数のグラフと関連させて、2次不等式を解くことができる。 ・2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係から2次不等式の解の意味を理解し、グラフを利用して2次不等式を解くことができる。				○
8月	3章 三角比					
104	1節 鋭角の三角比	・相似な三角形の性質を理解し、辺の長さを求めることができる。 ・タンジェントの意味を理解し、直角三角形の辺の長さからその値を求めることができる。 ・サイン、コサインの意味を理解し、直角三角形の辺の長さからその値を求めることができる。 ・三角比の表を活用して三角比の値を求めることができる。 ・三角比の相互関係について理解し、1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができる。 ・$90^\circ - A$の三角比の値を求めることができる。				○
10月	117 2節 三角比の応用	・与えられた辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求めることができる。 ・正弦定理を理解し、図形の計量の際に有効に活用することができる。 ・余弦定理を理解し、図形の計量の際に有効に活用することができる。 ・座標を用いて定めることで0° から180° までの角に対するものに拡張された三角比を理解し、その値を求めることができる。 ・角が鈍角の場合も三角比の相互関係が成り立つことを理解する。 ・角が鈍角の場合も正弦定理、余弦定理、三角形の面積の公式が成り立つことを理解する。				○
129	4章 データの分析					
130	1節 データの分析	・統計的探求プロセスを意識した統計的問題解決の活動について理解する。 ・目的やデータに応じて、度数分布表、ヒストグラムなどに表したデータや階級、度数、階級値、度数分布表、累積度数、ヒストグラム、相対度数、累積相対度数の定義や意味を理解することができる。 ・データの特徴を1つの数値によって表せることを理解し、それを平均値、中央値、最頻値などの代表値で表すことが理解できる。 ・データの散らばり具合を表す四分位数、四分位範囲の定義や意味を理解する。また、それを箱ひげ図であることを理解できる。 ・分散、標準偏差を理解し、それを求めることができる。 ・相関関係の強弱を表す相関係数について理解し、相関の強さが表せることを認識できる。 ・仮説検定の考え方を理解する。	1h	○		○
12月	5章 集合と論証					
150	1節 集合と論証	・部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解することができる。 ・命題の真偽と反例を考えることができる。 ・命題の逆、裏、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を養う。	2h	○	○	○

教科	数学	履修年次	3年次
科目名	数学Ⅱ	使用教科書	17-110402002717、17-110402002718
単位数	4単位		新数学Ⅱ、新数学Ⅱ 解答編
学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
	3	1章	方程式・式の証明		1h	○		
4月	4	1節	式の計算	・3次の乗法公式と因数分解の公式について理解し、それらを用いて計算することができる。 ・パスカルの三角形について考察し、二項定理を利用して式を展開することができる。 ・分数式とその約分、わり算、かけ算について理解し、その計算ができる。 ・分数式とその通分、たし算、ひき算について理解し、その計算ができる。				○
	12	2節	2次方程式	・虚数単位を理解するとともに、数を実数から複素数に広げることに興味をもち、従来解けなかった2次方程式にも解があることを理解する。 ・複素数の演算や共役な複素数について理解する。 ・すべての2次方程式を解くことができる。また、2次方程式の判別式について理解し、解を判別することができる。 ・2次方程式の解と係数の間に成り立つ関係について興味をもって調べ、2次方程式への理解を深める。			○	○

	20	3節 高次方程式	・多項式のわり算について理解し、商と余りの関係を表すことができる。 ・剰余の定理と因数定理について理解し、多項式のわり算や因数分解に関してそれらを利用することができる。 ・高次方程式について理解し、因数分解、因数定理を用いて高次方程式を解くことができる。また、身近な問題を解決することに、高次方程式を活用することができる。				○	○
6月	28	4節 式の証明	・左辺と右辺をそれぞれ計算することで、等式を証明し、論理的な思考力を養う。 ・左辺と右辺の差をとることで、不等式を証明し、論理的な思考力を養う。また、相加平均と相乗平均の間に成り立つ関係について理解し、それを用いて不等式を証明することができる。					○
	33	2章 図形と方程式						
	34	1節 座標と直線の方程式	・数直線上の2点間の距離を求めることができる。また、線分の内分・外分の意味を理解し、数直線上の内分点・外分点の座標を求めることができる。 ・座標平面について理解する。座標平面上で、2点間の距離や内分点、外分点の座標を求めることができる。また、三角形の重心の座標を求めることができる。 ・直線の傾きと切片について理解し、1点と傾きや、2点が与えられたときの直線の方程式を求めることができる。 ・2直線の交点の座標が方程式を連立して求められることを理解する。また、平行・垂直な2直線の方程式の間に成り立つ関係について理解し、それらを用いて直線の方程式を求めることができる。				○	○
	52	2節 円の方程式	・与えられた条件から円の方程式を求めたり、円の方程式から円の中心の座標と半径を求めたりすることができる。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができる。また、円と直線の共有点の個数について、2次方程式の判別式の符号と対応していることを理解する。					○
	57	3節 軌跡と領域	・軌跡について理解し、与えられた条件から軌跡を求めることができる。 ・不等式が表す領域を図示したり、領域を不等式に表したりすることができる。 ・連立不等式が表す領域を図示することができる。					○
8月	65	3章 三角関数						
	66	1節 三角関数	・角の概念を一般角まで拡張することについて理解する。 ・三角関数の定義を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。 ・一般角の三角関数についても三角関数の相互関係が成り立つことを理解する。 ・三角関数のグラフの特徴を理解し、そのグラフが分かる。 ・三角関数の性質を用いて三角関数の値を求めることができる。					○
	78	2節 加法定理	・三角関数の加法定理を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 ・加法定理の簡単な応用として2倍角の公式を導き利用できる。また、加法定理の逆として三角関数の合成を理解する。 ・弧度法の意味を理解し、弧度法による扇形の弧の長さや面積を求めることができる。					○
	85	4章 指数関数と対数関数		1h	○			
	86	1節 指数関数	・指数の範囲を整数全体に拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて計算することができる。 ・累乗根の意味を理解し、簡単な計算をすることができる。 ・指数の範囲を分数に拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて計算することができる。 ・指数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、指数関数のグラフをかいたり、大小比較をしたりすることができる。 ・身近な問題を解決することに、指数関数を活用することができる。					○
10月	96	2節 対数関数	・対数の意味を理解し、簡単な対数の値を求めることができる。 ・対数の性質を理解し、それを用いて対数の計算をすることができる。 ・対数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、対数関数のグラフが分かり、大小比較をしたりすることができる。 ・常用対数の意味と常用対数表の使い方を理解し、それらを用いて整数の累乗の桁数を求めることができる。					○
	105	5章 微分と積分						
	106	1節 微分係数と導関数	・関数の平均変化率が曲線上の2点を通る直線の傾きに等しいことを理解し、平均変化率を求めることができる。 ・極限値や微分係数の意味を理解し、微分係数を定義に基づいて求めることができる。 ・導関数の意味を理解する。 ・簡単な導関数の計算ができる。 ・導関数を利用して、微分係数を求めることができる。 ・曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。 ・与えられた曲線の方程式から曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。	1h	○			○
	116	2節 導関数の応用	・導関数の符号を利用して、関数の増減が理解できる。 ・関数の極大・極小の意味を理解し、極大値・極小値を求めたり、そのグラフが分かる。 ・ある定義域における関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求めることができる。					○
12月	124	3節 積分	・不定積分の意味を理解し、公式を用いて不定積分を求めることができる。 ・定積分の意味を理解し、公式を用いて定積分を求めることができる。 ・定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。	1h	○			○

教科	数学	履修年次	2年次
科目名	数学A	使用教科書	17-110404002002-905、17-110404002002-906
単位数	2単位		改訂版 新数学A、改訂版 新数学A 解答編
学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート		
4月	3	1章	場合の数と確率							
	4	1節	場合の数	- 部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、理解することができる。 - 補集合、和集合について、集合の要素の個数を求めることができる。 - 具体的な事象に関する場合の数を樹形図や表に整理して調べることができる。 - 和の法則や積の法則など数え上げの原則について理解し、場合の数を効率よく求めることができる。 - 樹形図を利用して順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。 - 順列の考え方をいろいろな場面に利用して、条件のついた順列の総数を求めることができる。 - 重複順列、円順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。 - 組合せの意味や性質を理解し、その総数を求めることができる。 - 組合せの考え方をいろいろな場面に利用して、組合せの総数を求めることができる。				○	○	
	22	2節	確率	- 試行と事象、事象の確率について、基本的な確率を求めることができる。 - 場合の数をもとに、確率を求めることができる。 - 確率の加法定理を理解し、排反事象の確率を求めることができる。 - 余事象の確率を求めることができる。 - 独立な試行の意味を理解し、簡単な独立な試行の確率を求めることができる。 - 反復試行について理解し、簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。 - 条件つき確率の意味を理解する。 - 期待値を求めることができる。	1h	○			○	
6月	39	2章	図形の性質							
	40	1節	平面図形の基礎	- 平行線と角の関係を理解し、角の大きさを求めることができる。 - 多角形の内角、外角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 - 三角形の合同条件、相似条件を理解し、辺の長さや角の大きさを求めることができる。 - 垂直二等分線、垂線、角の二等分線の作図方法を理解することができる。 - 図形の性質を利用した平行線やいろいろな大きさの角を作図する方法を理解し、目的に合った図形を選ぶことができる。	1h	○			○	
	50	2節	三角形の性質	- 三角形と比の性質や中点連結定理を理解し、線分の長さを求めることができる。 - 三角形の重心の性質を理解して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 - 三角形の外心、内心の性質を理解して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 - 三角形の角の二等分線と線分の比に関する定理を理解し、線分の長さを求めることができる。					○	○
8月	58	3節	円の性質	- 円の接線の性質、接線の長さについて理解し、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。 - 円周角の定理を理解し、角の大きさを求めることができる。 - 円に内接する四角形の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 - 接線と弦のつくる角の定理を理解し、角の大きさを求めることができる。 - 円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、方べきの定理が成り立つことを理解し、長さを求めることができる。 2つの円の位置関係を考察できる。						○
	70	4節	空間図形	2直線、2平面、直線と平面の位置関係を理解する。 - 多面体、正多面体を理解し、空間図形に対する見方を豊かにする。						○
	77	3章	数学と人間の活動							
	78	1節	数や位置を表す	- 古代の人々の記数法や漢数字による記数法について理解する。 10進法、2進法の数の表し方のしくみの法則を見つけることができる。 2進法と10進法の変換を行うことや対比してみると、記数法に対する理解を深めることができる。 - 平面上の点の位置を表す座標の考え方を理解する。						○
	86	2節	数のつくりを調べる	- 約数、倍数、素数、素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し、約数、倍数を求めたり、素因数分解したりすることができる。 - 素因数分解を利用して最大公約数、最小公倍数を求めることができる。 - ユークリッドの互除法を理解し、2つの正の整数の最大公約数を求めることができる。						○
	12月	92	3節	はかる	- 長さや面積の単位を調べることできる。 - 体積や重さの単位を調べることできる。 - 古代の人々の時計や、暦（うるう年）について理解する。	1h	○			○
	98	4節	数学で遊ぶ	- 魔方陣のしくみや解き方を筋道立てて考えることができる。 - 図形の不思議を説明することができる。 - 規則性を考えることのよさを知ることができる。 - 論理的に考えることのよさを知ることができる。 - 数学と文化の人間との関わりについての認識を深めることができる。						

教科	理科	履修年次	1年次
科目名	科学と人間生活	使用教科書	17-110501002002-901
単位数	2単位		改訂 科学と人間生活
学習目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために技能を身に付け、自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		I編	生命の科学					
4月	14	I章	微生物とその利用					
	16	I	さまざまな微生物	- 身のまわりにさまざまな微生物が存在することを知り、それらと人間生活との関わりについて考える。 - 食品中、水中、空気中には、それぞれどのような微生物が存在するかを知り、それぞれの細胞の大きさや形について考察する。 - 細菌、アーキア、原生生物、菌類に属するさまざまな微生物について理解する。 - 生態系のなかで、微生物は有機物を分解する分解者としての役割を果たしていることを理解する。 - 土壌微生物の分解者としてのはたらきを考察する。 - 生態系における微生物のはたらきと炭素の循環について理解する。 - 根粒菌が大气中の窒素から窒素化合物を合成していることを理解する。 - 生態系における微生物のはたらきと窒素の循環について理解する。 - ダイズの種子に含まれる養分の特徴について、根粒菌との共生関係と関連付けながら考える。 - 微生物が、分解者として水の浄化に関係していることを理解する。 - 下水処理の仕組みを知り、微生物を用いた汚水の浄化について考察する。 - 微生物を利用して環境の浄化が行われていることを理解し、その利点を考える。			○	○
	26	2	私たちの暮らしへの微生物の利用	- 発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する。 - 発酵食品にすることの利点について理解する。 - 微生物のはたらきによって、さまざまな発酵食品がつくられることを理解する。 - 酵母による発酵はどのような反応で、どのような条件のときに盛んに行われるかについて考察する。 - 酵母による発酵の反応でつくられる物質について考察する。 - アルコール発酵の仕組みとそれによって酒類やパンができることを理解する。 - 乳酸発酵の仕組みと乳製品や漬け物の製造に利用されていることを理解する。 - 顕微鏡を使うことで、さまざまな微生物が発見されるようになったことを理解する。 - 自然発生説を否定した方法について考え、理解する。 - 微生物やウイルスの発見の歴史を理解する。 - 微生物によってつくられる抗生物質の発見の歴史について理解する。 - 抗生物質の開発が感染症の治療にどのように貢献してきたかを考える。 - バイオテクノロジーを用いた、新たな医薬品の開発などが期待されていることについて考える。				○
	38	2章	ヒトの生命現象					
	40	I	ヒトの視覚と光による影響	- 眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じることを理解する。 - 錯視が起こる理由を考え、錯視について理解する。 - ヒトの眼の構造を理解する。 - 眼の構造を知る。 - 近くを見るときと遠くを見るとき調節の仕組みを理解する。 2種類の視細胞のはたらきを理解する。 - 周囲の明るさによる瞳孔の大きさの変化について考え、それらの関係を理解する。 1日を周期とした生活リズムについて考え、体内時計と眼との関係について理解する。	1h	○		○
	46	2	血糖濃度を調節するしくみ	- デンプンの消化と吸収の仕組みについて考え、理解する。 - 血糖濃度とそれを維持するための体内でのグルコースの流れについて理解する。 - 血糖濃度を調節するためにインスリンやグルカゴンがはたらいていることを知る。 - 食事の前後の血糖濃度、インスリン濃度、グルカゴン濃度のデータから、それらのホルモンのはたらきについて考察する。 - 血糖濃度を調節するための仕組みについて理解する。 - 糖尿病について理解する。 - 糖尿病と人間生活との関わりについて考える。	1h	○		○
	52	3	生命現象の大もととなる遺伝子のはたらき	- 遺伝情報を担う遺伝子や遺伝子の本体であるDNAについて理解する。 - DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解する。 - タンパク質はアミノ酸がつながってできていること、タンパク質によってアミノ酸の並び方は決まっていることを理解する。 - DNAの塩基配列からタンパク質がつくられる過程について理解する。 - ヒトの体内には多くの種類のタンパク質があり、それぞれ、さまざまなはたらきをもっていることを理解する。 - ヒトの体内ではたらくタンパク質にはどのようなものがあるかを考え、それらのはたらきについて知る。				○
6月	56	4	体を守る免疫のしくみ	- 免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 - 抗原抗体反応の仕組みと特徴について理解する。 - 免疫記憶について理解する。 - 一次応答と二次応答の血液中の抗体濃度の変化のデータを基に、免疫記憶の利点について考察する。 - 免疫反応によってアレルギーが引き起こされることがあることを理解する。 - 予防接種の意味を考え、予防接種で感染症を予防する仕組みについて理解する。				○
		2編	物質の科学					
	64	I章	衣料と食品					
	66	I	衣料の科学	- 日常生活で身に着けている衣料などはどのような繊維からできているか興味を持つ。 - 繊維の種類とそれぞれの用途について理解する。 - 繊維を燃やして、燃え方や燃えかす（灰）の特徴を基に、繊維の種類を見分ける。 - 植物繊維はセルロースから、動物繊維はタンパク質からできていることを理解する。 - さまざまな天然繊維の特徴と用途について理解し、それぞれがなぜその用途で利用されているのかを考える。 - 合成繊維は石油を原料とすることや、モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）について理解する。 - さまざまな合成繊維のモノマーとポリマー、性質と用途について知る。 - 再生繊維や半合成繊維の原料と用途について理解する。 2種類以上の繊維を混ぜて糸をつくり、利用することの利点を考える。				○

74	2 食品の科学				
	・ふだんの食事の三大栄養素やカロリーについて理解する。 ・無機質とビタミンのはたらきやそれらが含まれる食品について理解する。 ・三大栄養素の体内への取り込まれ方について理解する。 ・油脂の構造と性質について理解する。 ・油脂のけん化とセッケンの構造について理解する。 ・セッケンを使うと油污れが落ちる理由について、セッケンの脂肪酸イオンの構造と関連付けて考える。 ・デンプンは多数のグルコースが連なった高分子化合物であり、構造の違いからアミロースとアミロペクチンがあることを理解する。 ・炭水化物は糖類ともよばれ、単糖類、二糖類、多糖類に分類されることを理解する。 ・デンプンはヨウ素デンプン反応で検出されることを理解する。 ・デンプンの消化の進行を、ヨウ素デンプン反応で確かめる。 ・タンパク質は多数のアミノ酸分子が結合してできていることや、必須アミノ酸について理解する。 ・アミノ酸はペプチド結合で縮合することを理解する。 ・タンパク質はビウレット反応やキサントプロテイン反応で検出できることを理解する。 ・タンパク質の変性について理解する。	1h	○		○
8月	86 2章 材料とその再利用				
	88 1 リサイクルとは何か				
	・循環型社会を目指す必要性と3Rについて理解する。 ・ガラス瓶における3Rについて理解し、それぞれの利点について考える。 ・ガラス瓶のリサイクルにおける物質循環について考える。	1h	○	○	○
	90 2 金属の性質とその再利用				
	・金属と非金属の性質の違いを理解し、金属に特有の性質について理解する。 ・金属の構造について理解し、それを基に金属特有の性質について考える。 ・金属の性質と用途について知る。 ・金属を区別するための方法を考える。 ・実験結果を基に考察し、金属の種類による物理的な性質および化学的な性質の違いについて理解する。 ・金属のイオン化傾向を基に、金属と水溶液との反応について考える。 ・銅の製錬方法について理解する。 ・鉄やアルミニウムの製錬方法について理解する。 ・さびについて理解する。 ・さびを防ぐ方法と利用について考え、理解する。 ・金属の再生利用の基本と、リサイクルマークについて理解する。 ・スチール缶の再生利用の方法について理解する。 ・スチール缶の再生利用の現状から、エネルギー消費量の削減について考える。 ・アルミニウム缶の再生利用の方法を理解し、その重要性について考える。			○	○
	102 3 プラスチックの性質とその再利用				
	・プラスチックの種類や特徴、用途について理解する。 ・プラスチックを区別する方法を考え、いろいろなプラスチックの性質を知る。 ・プラスチックの構成元素について考え、主に炭素原子と水素原子からできていることを理解する。 ・プラスチックの原料について理解する。 ・モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）など、プラスチックの構造について理解する。 ・さまざまな機能をもつプラスチックが開発、利用されていることを知り、それらと人間生活との関わりについて考える。 ・プラスチックの再生利用の重要性について考えるとともに、プラスチックのマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルについて理解する。 ・日常生活でのプラスチックの利用について多面的に考える。			○	○
	3編 光や熱の科学				
	114 1章 光の性質とその利用				
	116 1 光の進み方とその基本的な性質				
	・直進、反射という光の性質を基に、物体が見える理由について理解する。 ・異なる物質の境界面で光が反射・屈折するときの法則を理解し、身のまわりでそれらをどのように利用しているかを考える。 ・全反射について理解する。 ・光の分散とスペクトルについて理解する。 ・光をプリズムに通したときの様子から、光の分散の決まりについて考察する。 ・光の波長とスペクトルとの関係について理解する。 ・虹ができる仕組みを知る。 ・光は、回折と干渉という波特有の性質をもつことを理解する。 ・シャボン玉の膜に虹模様が見える仕組みを知る。 ・偏光について理解する。 ・日常生活での偏光の応用について知る。	2h	○		○
10月	124 2 目に見える光と色の見え方				
	・連続スペクトルと線スペクトルについて理解する。 ・物体の色がどのようにして生じているかについて、光の3原色や人の視覚と関連付けて理解する。 ・物体の色は何によって決まるのかを考え、物体から目に届く光には透過光と反射光があることを理解する。			○	○
	128 3 目に見えない光とその利用				
	・赤外線・紫外線の性質とその利用について理解を深める。 ・電波やX線、ガンマ線の性質とその利用について理解を深める。 ・放射線の一種としてのX線やガンマ線の人間生活における利用やその影響について、考えたり調べたりする。				

136	2章 熱の性質とその利用				
138	1 熱とは何か				
	・原子や分子の熱運動と温度との関係について理解する。 ・温度の表し方であるセ氏温度や絶対温度について理解する。 ・温度による物質の状態変化と熱運動との関係について理解する。 ・熱の伝わり方には熱伝導、対流、放射があることと、それぞれの熱の伝わり方について理解する。 ・物質による熱の伝わりやすさの違いについて考える。 ・魔法瓶の仕組みなど、熱伝導、対流、放射と人間生活との関わりについて考え、理解を深める。 ・熱平衡、熱量、熱容量について理解する。 ・物質の質量や種類によって温まりやすさに違いがあることを捉え、熱量の保存や比熱について理解する。 ・水の比熱が大きいことと人間生活との関わりについての理解を深める。 ・蒸発熱について理解する。			○	
146	2 エネルギーの利用と私たちの暮らし				
	・力学的エネルギーについて理解する。 ・力学的エネルギーが熱エネルギーに変換する仕組みについて理解し、熱現象とエネルギーとの関係について考える。 ・化学エネルギーから熱エネルギーへの変換について理解する。 ・電気エネルギーから熱エネルギーへの変換について理解する。 ・家庭での電気の効率的な使い方について考察する。 ・熱機関と熱効率について理解するとともに、熱機関の熱効率とエネルギーの有効利用について考える。 ・熱現象の可逆変化と不可逆変化について理解する。 ・エネルギーの変換と保存について理解するとともに、省エネルギーの必要性について考える。 ・太陽エネルギーの特徴について考え、太陽光発電などへの理解を深める。			○	○
11月	4編 宇宙や地球の科学				
156	1章 自然景観と自然災害				
158	1 身近な自然景観の成り立ち				
	・プレート運動により、プレート境界に海嶺や海溝、山脈などができることを理解し、世界各地に見られるさまざまな地形の成因について考える。 ・地表の景観は常に変化し続けており、長い時間をかけて少しずつ移り変わることに理解を深める。 ・断層運動によって山地や低地ができることを理解する。 ・断層運動によってできた地形が見られる場所は、過去に地震が繰り返し発生した場所であることを理解し、防災のための取り組みの必要性に気づく。 ・マグマの性質とそれによる火山の姿や噴火の形態について理解する。 ・山脈や火山をもたらす原動力は地球内部の熱であり、その熱が地表に放出される過程でプレートが動いていることを理解する。 ・地表は徐々に風化してよりくなくなり、地すべりや土砂崩れ、土石流などが起こることがあることを理解する。 ・流水の三作用について理解する。 ・太陽のエネルギーがもたらすさまざまな地形や景観について理解する。	1h	○	○	○
166	2 自然災害と防災				
	・自然災害と自然現象との違いについて理解する。 ・降水など身近な自然現象を挙げ、どれくらいの変動を受けると災害になるか、また、どのような被害を受けるかを考える。 ・自然災害と人間生活との関わりおよび防災への取り組みの重要性についての理解を深める。 ・地震によるさまざまな災害について理解する。 ・プレート境界で起こる地震と内陸で起こる地震のメカニズムと特徴について理解する。 ・プレート境界で起こる地震は周期的に発生することを知り、南海トラフで発生する地震の周期を推論する。 ・地震災害への対策の必要性を理解し、防災・減災のためのさまざまな取り組みとその意義について考え、理解する。 ・火山の噴火によるさまざまな災害について理解する。 ・火山の噴火に対する防災・減災のための取り組みについて知る。 ・台風や低気圧などの大雨によるさまざまな災害について理解する。 ・暴風や雷、大雪などによっても気象災害が起こることを知る。 ・気象災害に対する防災・減災のための取り組みや課題について知る。 ・自然災害を軽減するために自分たちにできることについて問題を見いだす。 ・自然災害から受ける被害を抑えるためには一人一人の心構えと行動が重要であることを捉える。 ・自然災害から命を守るために自分たちにできることを考える。			○	
182	2章 太陽と地球				
184	1 太陽と月がもたらすリズム				
	・地球の自転と公転によって、1日や1年が定義されていることを理解する。 ・月の見え方とひと月について理解する。 ・太陽の年周運動や月の満ち欠け周期と暦との関係を知る。 ・潮の満ち干と月の引力との関係について考え、理解する。 ・太陽、地球、月の位置関係と潮位の変動との関係について考え、潮位の変動の周期性について理解する。				○
190	2 太陽が動かす大気と水				
	・太陽のエネルギー源や太陽の表面の様子について知る。 ・太陽活動の変動や太陽の放射エネルギーについて理解する。 ・太陽放射の熱収支について理解する。 ・温室効果ガスと温室効果の仕組み、地球温暖化について理解する。 ・大気の大気構造や対流について理解する。 ・空気の対流と気象との関係について考える。 ・緯度による太陽の熱の入射量の違いと地球の自転によって大気の流れができることを理解し、大気の大循環について理解する。 ・海流は風によって生じることを理解する。 ・大気と海水の移動によって低緯度の熱が高緯度に運ばれ、その結果としてさまざまな気候が形成されることを理解する。 ・風や海流が気候に与える影響について考察する。 ・地球の公転と自転軸の傾きによって季節が生じることを理解する。 ・気圧分布や季節風と各季節の気象との関係を理解する。 ・雨や雪、風などによるさまざまな気象災害について理解する。 ・台風の進路図を作成し、台風は何の影響を受けながら移動していくかを考察する。	1h	○		○
	5編 課題研究				

教科	理科	履修年次	3年次
科目名	化学基礎	使用教科書	17-110504002002-902
単位数	2単位		改訂 新編化学基礎
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究する力を養い、物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
	16	序章	化学とは何か					
	22	1編	物質の構成					
4月		1章	物質の成分と構成元素		2h	○		
	24	1節	物質の成分	- 身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考える。 - 純物質と混合物の性質を理解する。 - 混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。 - 原油は混合物であり、分留することで各種の石油製品としていることを理解する。 - 物質の溶解度は温度によって変化することについて理解する。 - 混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を選択できる。			○	○
	30	2節	物質の構成元素	- 物質は元素からつくられていることに気づく。 - 物質を構成する元素は、約120種類あることを知る。 - 純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。 - 元素の同素体について知る。 - 元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。 - 炎色反応の色から、水溶液中に含まれる元素を推測する。			○	○
	36	3節	物質の三態	- 物質が自然に広がっていく現象を拡散ということ、また、その現象は熱運動によることを理解する。 - 物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 - 物理変化と化学変化、状態変化の違いを理解する。 - 状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。 - 状態変化によって物質の体積がどのように変化するか知り、粒子のふるまいと関係について考察する。				○
		2章	原子の構造と元素の周期表					
	46	1節	原子の構造	- 物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 - 原子の大きさや構造について知る。 - 原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 - 原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 - 質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 - 放射性同位体が年代測定や医療などに使われていることを知る。	1h	○		○
	50	2節	電子配置と周期表	- 原子のモデルを用いて原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 - 電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 - 貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 - 最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合はこれらの示しているものが違うことを知る。 - 電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。 - アルカリ金属としてのナトリウムやリチウムの性質を知る。				○
6月		3章	化学結合					
	58	1節	イオンとイオン結合	- 身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 - 電子配置からイオンの生成を理解する。 - イオン化エネルギーの周期性に気づく。 - イオン結合の形成について理解する。 - イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。	1h	○	○	○
	68	2節	分子と共有結合	- 分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 - 共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 - 身近な高分子化合物の構造について知る。 - 配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。 - 分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。 - 結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 - 分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを理解する。			○	○
	80	3節	金属と金属結合	- 金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 - 自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 - 金属の性質について理解する。 - 身近に使われている金属および合金の成分、それらの用途や性質を知る。				
	84	4節	化学結合と物質の分類	- 結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 - 周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。			○	

		2編 物質の変化					
		1章 物質と化学反応					
	96	1節 原子量・分子量・式量					
		・原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 ・天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。	1h	○	○	○	
8月	100	2節 物質質量					
		・粒子の数に基づく量の表し方を考え、物質質量を知る。 ・物質質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・実験観察を通して、アボガドロ数を考える。 ・物質質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 ・物質質量を中心とした量的関係を理解する。					○
	108	3節 溶液の濃度					
		・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを理解する。				○	
	112	4節 化学反応の表し方					
		・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。	1h	○		○	
	114	5節 化学反応式の表す量的関係					
		・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・銅の酸化の実験データから、質量の関係を思いだして考察する。 ・炭酸カルシウムと塩酸の実験から、反応に関わる物質質量の比が化学反応式の係数の比を表していることを思いだして理解する。 ・過不足の生じる反応について理解する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。				○	
		2章 酸と塩基					
	124	1節 酸と塩基					
		・酸と塩基の性質について理解する。 ・アレニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを理解する。	1h	○		○	
	130	2節 水素イオン濃度とpH					
		・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 ・pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。					○
10月	136	3節 中和反応と塩の生成					
		・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。					
	140	4節 中和滴定					
		・中和の条件は、酸から生じるH ⁺ の物質質量と塩基から生じるOH ⁻ の物質質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・標準溶液に用いられる試薬のもつ特徴を知る。				○	○
		3章 酸化還元反応					
	154	1節 酸化と還元					
		・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。 ・反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。	1h	○		○	
	158	2節 酸化剤と還元剤					
		・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式を作ることができ、この反応の量的関係を理解する。					○
	166	3節 金属の酸化還元反応					
		・金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。					○
12月	170	4節 酸化還元反応の応用					
		・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。 ・鉱石から金属を取り出し、製錬について理解する。					○

教科	理科	履修年次	2年次
科目名	生物基礎	使用教科書	17-110506002002-902
単位数	2単位		改訂 新編生物基礎
学習目標	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		I編	生物の特徴					
4月		I章	生物の多様性と共通性		1h	○		
	14	I節	生物の多様性					
			・地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気付き、地球上に多様な種がみられるのはなぜか考える。 ・地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることを理解する。 ・共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを理解する。 ・生物の種と分類・系統について理解を深める。	1h	○	○	○	
	18	2節	生物の共通性					
			・生物と非生物の違いが何かを考えるを通して、生物と非生物を分ける基準が存在することに気づく。 ・顕微鏡を用いた微生物や動物、植物などの観察結果を比較し、生物のもつ共通性について考察する。 ・光学顕微鏡の各部の名称とはたらき、ミクロメーターの使い方と細胞の大きさの測定方法について理解する。 ・生物のもつ基本的な特徴を理解する。 ・ブロッコリー、タマネギ、ヒトの口腔内上皮、のDNAを抽出し、生物がDNAをもつという共通性があることについて考察する。				○	○
	22	3節	細胞の特徴					
			・写真の細胞を動物細胞と植物細胞のどちらに分類されるか考える。 ・真核細胞の構造について理解する。 ・動物細胞と植物細胞に共通する細胞小器官を理解する。 ・原核細胞の構造について理解する。 ・真核細胞と原核細胞の構造を学習し、細胞の共通性と違いについて理解する。 ・細胞、組織、器官の関係を理解する。 ・ウイルスが非生物と考えられている理由を知る。					○
		2章	生物とエネルギー		1h	○		
	28	I節	生体とATP					
			・ダイズの発芽から生物がエネルギーを利用していることに気付く。 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 ・ATPが呼吸や光合成など生体内で、エネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解する。 ・ATPの構造や、リン酸どうしの結合にエネルギーが蓄えられていることを理解する。 ・ATPを利用して衛生管理が行われるなど、ATPを利用した技術があることを知る。 ・生物が、同化によってエネルギーを蓄え、異化によってエネルギーを取り出していることを理解する。 ・同化や異化の代謝の過程で、生じるエネルギーの受け渡しにATPが利用されていることを理解する。	1h	○		○	
	32	2節	酵素のはたらき					
			・酵素の性質に注目し、パイナップルゼリーの作り方について考える。 ・酵素の基本的な特徴を理解する。 ・酵素には基質特異性があることを理解する。 ・酵素の基質特異性が何によってもたらされるか理解を深める。 ・酵素の主成分がタンパク質であることから、最適温度と最適pHという性質が生じることについて理解を深める。				○	○
	36	3節	呼吸と光合成					
			・運動をすると空腹になることに気付く。 ・呼吸におけるグルコースの分解反応について理解する。 ・呼吸と燃焼の違いを理解する。 ・呼吸の場であるミトコンドリアの構造について理解を深める。 ・ミトコンドリアでは、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の3つの過程を経て呼吸反応が進行することについて理解を深める。 ・光合成は、ATPの合成から始まることを理解する。 ・真核細胞内では、光合成は葉緑体で行われ、原核細胞では細胞質基質で行われることを理解する。 ・光合成の場である葉緑体の構造について理解する。 ・光合成が、チラコイドで行われる反応とストロマで行われる反応からなることを理解する。 ・細胞内共生説について理解を深める。				○	○
		2編	遺伝子とそのはたらき					
		I章	遺伝情報とDNA					
	46	I節	生物と遺伝子					
			・親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい、遺伝は遺伝情報であるDNAによって担われていることを理解する。 ・遺伝情報にはさまざまな形質に対応する情報が含まれ、父母の双方からの形質が別々に伝わることで、同じ生物の間でもわずかな形質の違いが生じることを理解する。 ・真核生物では、DNAが染色体の成分として存在することを理解する。 ・生命の維持に必要な1組のDNAをゲノムといい、真核生物の細胞には両親に由来する2組のゲノムが含まれることを理解する。 ・相同染色体とは何かを理解する。 ・遺伝情報を担う物質がDNAであることがどのように証明されてきたのかを知る。 ・エイブリーらの実験、ハーシーとチェイスの実験において、遺伝情報がタンパク質でなくDNAであることが、どのように明らかにされたのかを知る。				○	○
6月	50	2節	DNAの構造					
			・結合する塩基に相補性があることを理解する。 ・DNAの二重らせん構造の特徴を理解する。 ・DNAを構成する塩基の割合とDNAの二重らせん構造との関係性について考える。 ・塩基配列の違いによって、生物ごとに遺伝情報が異なることを理解する。 ・シャルガフの規則をもとに、塩基の割合を計算する。 ・DNAの構造の解明に尽力した科学者について知る。				○	○
	56	3節	DNAの複製と分配					
			・細胞分裂のどこかの段階でDNAが倍になっていることに気づく。 ・塩基の相補性によりDNAが正確に複製されることを理解する。 ・DNAの複製は正確に行われることを理解する。 ・細胞周期の概要を理解する。 ・細胞周期の制御の異常により、がん細胞が生じることを知る。					○

		2章 遺伝情報とタンパク質の合成				
62		1節 タンパク質				
		・タンパク質が身近な食材に存在していることに気づく。 ・タンパク質はアミノ酸がつながった分子であることを理解する。 ・アミノ酸の種類と並び方によって、多様なタンパク質が生じることを理解する。 ・生命活動には多種多様なタンパク質が関与していることを理解する。			○	○
64		2節 DNAとタンパク質の合成				
		・遺伝情報は、ATGCの4つの文字のみで表現されていることから、4文字の組み合わせによって膨大な情報を表現できることに気づく。 ・DNAの遺伝情報は、まずmRNAに転写された後、アミノ酸に翻訳されることで発現するという流れ（セントラルドグマ）を理解する。 ・アミノ酸の構造と種類について理解を深める。 ・RNAの特徴とDNAとの違いを理解する。 ・デオキシリボースとリボースの違いについて理解を深める。 ・転写と翻訳の過程について理解する。 ・mRNAの塩基3つの組をトリプレットと呼び、各トリプレットがそれぞれアミノ酸に対応していることを理解する。 ・コドンとアミノ酸の対応をまとめた遺伝暗号表について理解する。 ・転写と翻訳のしくみについて理解を深める。 ・コドンが3つの塩基からなる理由について考える。 ・DNAの塩基配列からつくられるmRNAの塩基配列およびアミノ酸配列について考える。 ・転写と翻訳のしくみについて理解を深める。				○
72		3節 細胞の分化と遺伝子				
		・1個の細胞（受精卵）から、さまざまな種類の細胞が生じることに気づく。 ・1個の細胞がさまざまに分化して個体をつくっていることを理解する。 ・細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで、多種の細胞に分化することを理解する。 ・ヒトの組織や細胞に含まれる細胞には、どのような種類があるのかを考えてみる。			○	○
		3編 ヒトの体の調節				
		1章 ヒトの体を調節するしくみ				
80		1節 体内環境				
		・ヒトの体温の例から、気温の異なる環境下でも、体温が一定の範囲内に収まっていることに気づく。 ・体内環境と体液の関係について理解する。 ・ヒトの体内環境を一定に保とうとする調節のしくみを理解する。 ・心臓と血管の役割や構造を知る。 ・赤血球に含まれるヘモグロビンがどのようなしくみで酸素を運搬するか考える。 ・どのようなしくみで血液凝固が起こっているか理解を深める。			○	○
86		2節 神経系による情報伝達				
		・空腹時における不随意に体に起こる反応の例から、無意識に体内環境が調節されていることに気づく。 ・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだす。 ・神経系の構成について理解する。 ・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連づけて理解する。 ・脳の構造とおもなはたらきについて知る。				○
8月	92	3節 ホルモンによる情報伝達				
		・情報伝達には特徴に合わせたさまざまな種類があることに気づく。 ・内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について知り、ホルモンが受容されるしくみを理解する。 ・間脳の視床下部がホルモン分泌の中枢として機能することを理解する。 ・ホルモンの分泌量がフィードバックによって調節されていることを理解する。 ・視床下部に存在する神経分泌細胞について知る。			○	○
	96	4節 血糖濃度の調節				
		・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。 ・血糖濃度の調節にかかわるホルモンの種類と、それぞれのはたらきについて理解する。 ・インスリンの作用と糖尿病の関係について理解する。 ・糖尿病の患者数の変化を、食事や移動手段の変化など生活と関連したデータをもとに考える。 ・体温の調節機構について、関係する器官と支配のしくみを知る。 ・肝臓と腎臓の役割や構造を知る。 ・腎臓のはたらきについて理解する。 ・血しょう・原尿・尿の中のおもな物質濃度をもとに、濃縮率・原尿量・再吸収量について考える。				○
10月		2章 免疫のはたらき				
	106	1節 免疫のしくみ				
		・白血球の一種である好中球の食作用の資料から異物を除去する機構について気づく。 ・ヒトは免疫によって病原体などの異物から体を防御していることを理解する。 ・自然免疫について分類や特性を理解する。 ・適応免疫を支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 ・免疫のしくみについて俯瞰的に整理して理解する。 ・免疫反応において情報伝達にかかわる物質について理解を深める。 ・免疫反応が正常におこる仕組みについて知る。				○
	112	2節 免疫の応用				
		・感染症の症状や原因および予防接種について関連付けて理解する。 ・体内の抗体量の変化のデータから二次応答のしくみを見いだして理解する。 ・免疫記憶と二次応答について理解する。 ・対数グラフについて知る。 ・免疫グロブリンのはたらきや特徴を理解する。 ・予防接種のしくみを理解する。 ・血清療法のしくみと歴史を知る。				○

118	3節 免疫とさまざまな疾患				
	・アレルギーについて考える。 ・アレルギーの定義や症状について理解する。 ・花粉症発症のしくみを例にアレルギーの発症について理解を深める。 ・I型糖尿病などの自己免疫疾患について理解する。 ・対象となる器官の違いによって、さまざまな自己免疫疾患があることを知る。 ・AIDSを例に免疫機能の低下による疾患について理解する。 ・天然痘ワクチン発明の経緯や、エビデミックやパンデミックの歴史を知る。				○
4編	生物の多様性と生態系				
1章	植生と変遷	1h	○		
128	1節 植生とその環境				
	・身のまわりに多様な植物が生育していることに気づく。 ・環境要因と環境形成作用の関係について理解する。 ・樹木のある場所とない場所における環境の違いを見いだす。 ・森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 ・森林の構造と相対照度のデータから、層ごとの明るさの変化について考える。 ・植物がもつ生息環境に適した形態や生活様式について知る。 ・環境要因としての土壌の構造や成り立ちについて理解する。	1h	○		○
132	2節 植生の遷移				
	・身近な空き地の変遷から、植生が時間とともに変化することに気づく。 ・遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解する。 ・遷移の原因を見いだして理解する。 ・光環境の変化と優占する植物の関係について理解する。 ・一次遷移と二次遷移との違いに注目して自然災害について考える。 ・極相林でも起きる植生の変化について、ギャップに着目して理解する。 ・自然災害を挙げ、その災害の後の遷移の進行について考える。 ・二次遷移について、一次遷移との違いに注目して理解する。 ・遷移の進行と地表に届く光の関係性について理解する。 ・遷移の進行と光合成の関係について知る。				○
138	3節 遷移とバイオーム				
	・標高が高い所では森林が形成されないことから、環境によって遷移の結果が異なることに気づく。 ・バイオームが遷移を経て成立していることを見いだして理解する。 ・環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。 ・陸上のバイオームが森林・草原・荒原に分けられることを理解する。 ・世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知る。 ・日本のバイオームについて、遷移と関連づけて理解する。				○
2章	生態系と生物の多様性	1h	○		
150	1節 環境と生物のかかわり				
	・ある環境の中にさまざまな生物が存在していることに気づく。 ・生態系における種の多様性を見いだして理解する。 ・環境によって生息する生物が異なることを理解する。 ・生物の多様性について3つの視点から理解を深める。	1h	○		○
154	2節 生物間の関係				
	・生態系において生物どうしが関わり合っていることに気づく。 ・食物網、栄養段階と生態ピラミッドについて理解する。 ・被食と捕食による生物どうしのつながりに気づき、生物の関係性が種多様性に関わることを見いだして理解する。 ・キーストーン種について理解する。 ・種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解する。 ・食物網について理解する。 ・生態系を回復させる手法について知る。 ・生態系の変化について知る。				○
12月	160 3節 生態系とかく乱				
	・生態系のバランスには変化が起きることに気づく。 ・人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解する。 ・人為的かく乱について、生物の多様性との関係を理解する。 ・台風や大雨などの自然攪乱について理解する。 ・生態系の復元力（レジリエンス）について、生態系のバランスとの関係を理解する。 ・生態系の復元力を超えたかく乱が生じたときの影響について考える。 ・生物濃縮について理解する。 ・日々の生活が大きな環境問題とつながっていることを知る。 ・近年問題視されているマイクロプラスチックの問題について知る。 ・外来生物が生態系に与える影響について理解する。 ・日本の特定外来生物について知る。 ・人間による生物の導入が生態系に与える影響を考える。 ・地球温暖化の進行による感染症の流行や自然現象の変化について知る。				○
166	4節 生態系の保全				
	・アンブレラ種とフラッグシップ種について理解する。 ・認証制度について知る。 ・生物多様性の保全にはそれぞれの立場からの努力や協力が必要であることを理解する。 ・環境アセスメントの具体的な事例を基に、生態系の保全の重要性を見いだして理解する。 ・日々の生活の見直しが、生態系の保全につながることを理解する。				○
174	終章 生物基礎と未来への行動				

教科	理科	履修年次	3年次
科目名	地学基礎	使用教科書	17-110508002002-901
単位数	2単位		改訂 地学基礎
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養うとともに、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する態度を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		I 編	私たちの大地					
4月		I 章	大地とその動き		1h	○		
	12	I 節	地球の形と大きさ	・地球が球形であることは、どのようなことを根拠に考えたのかを理解する。 ・エラトステネスが地球の大きさを求めた方法を理解する。 ・エラトステネスが地球の大きさを考える上で仮定したことを理解するとともに、地球に到達する太陽光線が平行だと考えてよい理由を考える。 ・地球の大きさを求め、誤差の原因と精度を高めるための方法を考える。 ・地球の形について、地球が赤道方向に膨らんだ回転楕円体であること、回転楕円体のつぶれ具合を扁平率で表すこと、地球の形に近似した回転楕円体を地球楕円体ということを理解する。 ・扁平率から惑星（金星、土星）の形を探究し、そのような値になる理由を考える。 ・振り子時計の遅れから、地球上の位置によって重力の大きさが異なることを理解するとともに、そのことから地球の形を考える。				○
	16	2 節	地球の内部構造	・地球の内部は密度の違い（物質の違い）から、地殻、マントル、核（外核、内核）に分かれた層構造をしていることを理解する。 ・物質によって密度が異なることに気づき、それを地球の層構造につなげて考える。			○	○
	18	3 節	地球内部の動きとプレート	・物質は同じだが、温度の差による流動のしやすさで区分できることを理解する。 ・プレートが、地球内部の物質の違いによる区分のどの部分にあたるかを理解する。 ・地震波の速度がやや遅くなる部分（低速度層）がアセノスフェアに、その上の地震波が速く伝わる部分がリソスフェアに相当することを理解する。 ・地震や地殻変動などの地球の変動の原因をプレートの運動から説明できることを理解する。 ・プレートの運動はマントルの対流の一部と考えられること、対流の原動力の1つとして、ブルームについて理解する。 ・地球の内部構造の詳細について理解する。 ・世界の大地形とプレートとの関係、さらには地震の震源分布や火山の分布と、プレートとの関係に気づく。			○	○
	24	4 節	大地形の形成と地質構造	・プレートの境界は3つに分けられ、中央海嶺や地溝帯、海溝や大山脈、トランスフォーム断層ができることを理解する。 ・発散境界がある場所を知るとともに、その特徴を理解する。 ・海洋底の年代から、プレートの新旧、プレートの移動速度を求める。 ・収束境界がある場所を知るとともに、その特徴を理解する。 ・すれ違う境界の特徴を理解する。 ・地殻変動によって生じる地質構造（しゅう曲、断層）について理解する。 ・地球とほかの惑星の高度分布の違いがあることを知る。 ・プレート運動の発見の歴史を知る。				○
		2 章	地震					
	30	I 節	地震の発生	・地震とプレート運動の関係性を理解し、断層の両側の岩盤にかかる力の違いによって、岩盤のずれの向きが異なることを理解する。 ・震源と震源域の違いについて理解する。 ・大地震ほど震源域が大きいことを理解する。 ・地震の揺れの大きさを段階的に表した震度と、地震の規模を示すマグニチュードとの違いを理解する。 ・初期微動継続時間は震源までの距離に比例していることを理解する。	1h	○		○
	34	2 節	日本列島付近で起こる地震	・海溝の巨大地震の典型例であるプレート間地震の発生場所とメカニズムを理解する。 ・浅いプレート内部の地震の発生場所とメカニズムを理解する。 ・沈み込むプレート内部の地震の発生場所とメカニズムを理解する。				
	36	3 節	地震による災害と防災	・海域で発生する地震で、しばしば発生する津波について理解するとともに、どのような備えが必要かを考える。 ・地震による土砂災害に、斜面崩壊、地すべり、土石流があることを理解するとともに、どのような備えが必要かを考える。 ・地震の震度による建物の倒壊の違い、地盤の悪い地域で発生する液状化現象、地震のメカニズムの違いによる被害の範囲の違いを理解するとともに、どのような備えが必要かを考える。 ・地震による火災の特徴を理解するとともに、どのような備えが必要かを考える。 ・地震の発生の日時、場所、規模を正確に予知することは、現在のところ不可能であることを理解する。 ・発生した地震の情報をいち早く伝えるしくみとして緊急地震速報ほか、震災軽減のための取り組みを理解する。 ・過去の大地震を古文書から調べることができると知る。 ・地震波の周期の長短によって、建物の揺れ方が異なることを知る。				○
		3 章	火山活動		1h	○		
	40	I 節	火山噴火の多様性	・火山が噴火するしくみについて理解する。 ・マグマの粘性はマグマの温度とマグマ中のSiO₂の割合によって異なり、粘性の違いによって噴火のようすが異なることを理解する。 ・火山噴火によって放出される物質を火山噴出物といい、火山ガス、溶岩、火山砕屑物に分類されることを理解する。				
	42	2 節	火山の噴火とその形	・マグマの粘性が火山噴火の多様性ととともに、火山の形にも影響を与えていることを理解する。			○	○
	44	3 節	火山の分布とマグマの発生	・世界の火山分布図から、火山の分布が3つに区分できると気づく。 ・日本列島は弧状列島であり、火山が海溝にほぼ平行して帯状に分布していること、海溝と火山分布域の間200～250km程度には火山がないことを理解する。 ・2つのプレートが互いに離れ、新しいプレートができる中央海嶺では、玄武岩質マグマを噴出し、活発な火山活動を繰り返し返していることを理解する。 ・海洋、大陸を問わず、プレートの内部で噴火する火山もあり、これらの地域の火山活動をホットスポットということを理解する。 ・クエーサーから放射される電波を利用して、プレートの移動速度を観測できることを知る。 ・圧力が下がったり、水が加わったりすると、かんらん岩が融け始めることを理解する。			○	○

6月	48	4節 火山による災害と防災				
		・ハザードマップに示されている内容について理解して、ハザードマップを読む。				
	50	5節 火成岩				
		・造岩鉱物はその多くがSiO₄四面体を基本単位としてつくられ、FeやMgの含有の有無によって、有色鉱物と無色鉱物とに大きく二分されることを理解する。 ・火成岩は、岩石の組織と岩石の色調によって分類されることを理解する。 ・深成岩に含まれる鉱物の形が本来の結晶の形を示すかいないかで、マグマ溜まりで結晶化した順序を読み取ることができることを理解する。 ・火成岩について、構成している鉱物の特徴などから火成岩がどのような場所で作られたかを考える。 ・主な火成岩が組織により火山岩と深成岩に分けられ、SiO₂の割合により苦鉄質岩、中間質岩、ケイ長質岩に分けられることを確認する。			○	○
		6節 変成岩と変成作用				
		・日本列島の直下のようなプレートの沈み込み場所では、プレートの沈み込みとマグマの活動によって、地層や岩石が高い温度や圧力のもとにおかれることを理解する。 ・変成作用と変成作用で生じる変成岩について理解する。 ・広域変成作用と片岩、片麻岩の特徴を理解する。 ・接触変成作用とホルンフェルス、結晶質石灰岩（大理石）の特徴を理解する。 ・鉱物の並び方、鉱物粒の大きさなどの特徴によって、広域変成岩、接触変成岩に分けられることを確認する。 ・同じ化学組成で、結晶構造の異なる鉱物どうしの関係を多形ということ、変成岩中に存在する鉱物の多形の関係から、生成時の温度や圧力を推定できる場合があることを知る。 ・岩石薄片を偏光顕微鏡で観察できることを確認する。			○	○
		2編 私たちの空と海				
		1章 地球大気の特徴				
	64	1節 大気の大気層構造				
		・大気の組成を知るとともに、高度約80kmまではほぼ一定であることを理解する。 ・気圧は、その地点より上にある大気の重さによる圧力であることを理解する。			○	○
	68	2節 対流圏で起こる現象				
		・風は気圧の差によって気圧が高い方から低い方に向かって吹くことを理解する。 ・地上では、気圧傾度力、偏向力と空気塊と地表面との摩擦力の3つの力がつり合って風が吹くことを知る。 ・水の状態変化、状態変化に伴って出入りする熱である潜熱、雲の発生するしくみを理解する。 ・雲のある高さや形などによって、雲の種類は10種類に分類されていることを理解する。			○	○
		2章 大気の特徴とその運動				
	74	1節 放射と地球全体の熱収支				
		・地球は太陽放射(主に可視光線)のごく一部を受け取っており、その量は太陽定数から求められることを理解する。 ・物体の温度が高いほど、物体から放射されるエネルギーの量が多くなること（ウィーンの変位則）をグラフから読み取る。 ・地球は電磁波(主に赤外線)を宇宙空間に地球放射として放出していること、地球放射の赤外線の領域は、大気中の水蒸気や二酸化炭素などによく吸収されることを理解する。 ・太陽放射や地球放射以外に、地表面と大気との熱の運ばれ方には、顕熱輸送と潜熱輸送があることを理解する。 ・地球の熱収支は、地球全体でみるとつり合っていることを理解する。 ・放射冷却とは夜間、太陽放射によるエネルギーの吸収がなくなり、地球放射によるエネルギーの放出だけとなるため気温が下がることを理解する。				○
	78	2節 緯度ごとの熱収支				
		・太陽が地表を真上から照らしているとき、エネルギー量がいくらになるかを考える。 ・緯度ごとに、降水量と蒸発量の水収支を考え、砂漠や熱帯雨林気候の分布と関連することを理解する。			○	
	82	3節 大気の大循環				
		・低緯度ではハドレー循環によって、中緯度では偏西風によって、高緯度では極循環による大気の循環があることを理解する。 ・海洋と大陸との温度差は季節によって変わり、地域によっては風向が大きく変化する季節風（モンスーン）が吹くことを理解する。 ・偏西風が蛇行することが、中緯度の南北の温度差を解消する役割を担っていることを理解する。				○
		3章 海水の特徴とその運動	1h	○		
	84	1節 海洋の構造				
		・海水の塩類の組成と、塩類の組成比が世界中の海ではほぼ一定であることを理解する。 ・海面水温は緯度や場所によって異なることを理解する。 ・海洋は深さとともに温度によって、表層混合層、水温躍層、深層の3つの層に分けることができることを理解する。 ・海水の密度は、水温と塩分で決まることを知る。	1h	○		○
	86	2節 海洋の表層循環				
		・海洋の表層における水平方向の流れを海流といい、地上の風や自転の影響、地形の効果などによって決まることを理解する。 ・日本周辺の海流には、黒潮、対馬海流、千島海流（親潮）などがあることを理解する。				
	88	3節 海洋の深層循環				
		・海水は北大西洋北部や、北極海、南極大陸のまわりで、冬になると風により海面の熱が奪われて盛んにつくられ、その際にできた高密度の海水が鉛直方向の流れをつくっていることを理解する。				
	90	4節 大気と海洋の相互作用				
		・大気と海洋には、互いに密接な関係があり、気候の変動の理解には、大気だけでなく、世界規模で海洋を観測し続けることが重要であることを理解する。 ・大気と海洋の相互作用の例として、エルニーニョ現象とラニーニャ現象について理解する。				○
		4章 日本の天気と気象災害				
	94	1節 日本付近の天気の特徴				
		・日本周辺の季節や天気は、シベリア高気圧、太平洋高気圧、オホーツク高気圧、移動性高気圧の勢力の変化によって影響を受けることを理解する。 ・中緯度地方に位置する日本付近では、温帯低気圧が発生し、その影響により天気に変化することを理解する。				

96	2節	季節の特徴と気象災害	・日本付近はシベリア高気圧によって、西高東低と呼ばれる冬の気圧配置となり、日本海側では豪雪や暴風雪に伴う交通障害や雪崩の発生、太平洋側では乾燥による火災の危険があることなどを理解する。 ・偏西風の影響で、天気が周期的に変化し、春一番が吹くような気圧配置では暴風や波浪による災害が、4月後半から5月頃には、温帯低気圧の急速な発達によるメイストームなどが起こりうることを理解する。 ・温暖湿潤な太平洋高気圧と寒冷湿潤なオホーツク海高気圧の境目に生じた停滞前線（梅雨前線）によって、雨や曇りの日が多くなる。梅雨の後期には集中豪雨が起きやすく、発生した積乱雲が線状に連なって通過することで、同じ場所に長時間豪雨を降らせる線状降水帯によって、土砂災害や河川の氾濫の危険性が高くなることなどを理解する。 ・日本付近は太平洋高気圧によって、南高北低と呼ばれる夏の気圧配置となり、日本列島には南から暖かく湿った空気が流れ込んで高温多湿の晴れた日が続くため、最高気温が35℃以上の猛暑日が続き、熱中症のリスクが高くなったり、局地的な大雨や雷が発生したりすることなどを理解する。 ・台風は北西太平洋や南シナ海で発生した熱帯低気圧が発達し、中心付近の最大風速が約17m/s以上になったものをいい、台風が日本列島に接近・上陸すると、暴風や大雨による災害や、沿岸部で気圧の低下による海面の上昇と風による海水の吹き上げにより、高潮が発生することなどを理解する。 ・太平洋高気圧の勢力が弱まり、オホーツク海高気圧が南下してくると、太平洋高気圧とオホーツク海高気圧の境目に生じた停滞前線（秋雨前線）が生じる。秋雨前線に台風が接近すると、南からの湿った空気の流入によって、豪雨が起ることがある。秋雨前線による集中豪雨や台風による災害が起ることなどを理解する。					○		
8月	3編	私たちの宇宙の誕生								
	1章	宇宙の構造と進化								
106	1節	宇宙を探る	・さまざまな波長の電磁波などを捉えて多種多様な天体を多数観測することで、天体の進化のようすを推測することができることを理解する。 ・巨大な望遠鏡を使って遠くの天体を観測することで、過去の宇宙の姿を直接調べることができることを理解する。							
108	2節	宇宙の誕生と進化	・今から138億年ほど昔、ビッグバンと呼ばれる超高温高密度の状態 で誕生したことを理解する。 ・宇宙誕生直後に電子、陽子、中性子が形成され、宇宙誕生約3分後に、水素の原子核である陽子と、その一部はさらに中性子が結合して、ヘリウム原子核が形成されたことを理解する。 ・宇宙の膨張が続き温度と密度が下がり、宇宙を飛び交っていた電子が陽子、ヘリウム原子核と結合し、水素原子、ヘリウム原子が誕生したことを理解する。 ・原子が誕生したことで、電磁波が電子に邪魔されなくなったため、宇宙は透明になった。宇宙誕生約38万年後に起きたこの変化を宇宙の晴れ上がりということを理解する。 ・宇宙の晴れ上がりから時間が経つと、水素原子が冷え、ガス雲となり、宇宙誕生数億年後には、そこから恒星ができ、さらに銀河も誕生したことを理解する。					○	○	
110	3節	天の川銀河	・太陽系は天の川銀河に属し、天の川銀河は1000億個程度の恒星が、直径10万光年、厚さ数千光年の円盤状に集まっていることを理解する。 ・天の川銀河が円盤部、バルジ、ハローからなることを理解する。 ・星と星の間は、星間ガスや星間塵からなる星間物質が分布し、星間ガスがまわりより濃い場所を星間雲ということを理解する。 ・銀河の円盤部には散開星団が、ハローには球状星団が分布していることを知る。					○	○	
112	4節	太陽の誕生	・原始太陽はおおよそ46億年前に星間雲の収縮によって誕生したことを理解する。 ・原始太陽はさらに収縮し、中心の温度が約1400万℃に達すると、4つの水素の原子核から1つのヘリウム原子核をつくる核融合反応が始まり、主系列星となったことを理解する。 ・太陽のエネルギーは、中心部で起こる水素核融合反応によって生じていることを理解する。 ・恒星は最初の質量によって、進化の道筋が決まり、将来、太陽は赤色巨星を経て、放出したガスは惑星状星雲、中心部は白色矮星となる。太陽よりずっと重い恒星の場合は、超新星爆発を起こし、中性子星やブラックホールとなることを知る。 ・恒星について、横軸に表面温度、縦軸に明るさをとったグラフをHR図（ヘルツシュプルング・ラッセル図）ということを知る。						○	
114	5節	太陽の特徴	・太陽の表面の様子や表面で起っている現象を理解する。 ・太陽活動が活発な極大期には、太陽表面での爆発現象であるフレアが多発し、地球上で通信障害を起こし、激しく変化するオーロラが見られたり、磁気嵐が発生したりすることを知る。						○	
	2章	太陽系の誕生								
116	1節	太陽系の全体像	・海王星軌道の外側にある多数の天体は、太陽系外縁天体と呼ばれ、多くは約50天文単位の距離まで広がるエッジワース・カイパーベルトに分布し、彗星の中には太陽から1万～10天文単位の距離にあるオールトの雲に分布していると考えられていることを知る。							
118	2節	太陽系の誕生	・星間雲が自らの重力によって収縮して原始太陽が誕生し、原始太陽に取り込まれなかった物質が原始太陽系円盤となり、その内部で微惑星が形成されたことにより、太陽系が誕生していったことを理解する。 ・微惑星が互いの重力で、衝突合体して原始惑星に成長し、さらにその巨大衝突によって、現在の惑星が誕生したこと、原始太陽からの距離によって性質の異なる2種類の惑星が形成されたことを理解する。 ・地球型惑星は鉄・ニッケルの核があり、その外側には岩石質の層がある。木星型惑星は水や岩石からできた固体の核があり、木星と土星はそのまわりを金属のような性質をもつ水素、さらにそのまわりを液体や気体の水素が覆っている。天王星と海王星は固体の核のまわりに分厚い氷の層、さらにそのまわりには水素とヘリウムの液体と気体の層があることを理解する。						○	
120	3節	太陽系の構成	・地球型惑星の特徴を理解する。 ・木星型惑星の特徴を理解する。 ・衛星は惑星などの周りを公転している天体で、衛星ごとにさまざまな特徴があることを理解する。 ・太陽系外縁天体は海王星軌道の外側にある天体で、その代表の1つが冥王星であることを理解する。 ・小惑星は惑星とその衛星以外の天体で塵やガスを放出しない天体で、彗星は塵やガスの放出が確認された天体であることを理解する。 ・流星は大半が1mm程度の小さな塵が大気と高速で衝突して発光する現象で、隕石は大気中で燃え尽きずに地上まで落ちてきた天体であることを理解する。						○	○
124	4節	地球の特徴	・どのような条件が生命の誕生と繁栄に適しているのか、生物学、化学、物理学、そして地学のさまざまな分野が横断して複合的に研究するアストロバイオロジーという研究分野について知る。							

	4編 私たちの地球の歴史				
	1章 地層と化石の観察				
134	1節 地層の形成				
	・地層がどのようにできるのかを理解する。 ・地層累重の法則では通常上の地層の方が下の地層より新しいが、逆に上の地層の方が下の地層より古い時代のものであることも起こる。それはどのような場合かを考える。 ・地表に現れた岩石が受ける風化について、物理的風化と化学的風化の原因や特徴を理解する。 ・地層をつくる堆積物の粒子は、その大きさ（粒径）によって分類され、堆積物の粒子の大きさと水流の流速とは、密接な関係があることを理解する。 ・川や海で、どのような堆積物がどのような場所で堆積するかを理解する。 ・土砂災害には斜面崩壊、地すべり、土石流があることを知る。 ・堆積物が堆積してから硬い岩石になるまでの過程を続成作用といい、堆積岩の分類について理解する。	1h	○	○	
140	2節 地層からわかる情報				
	・地層や岩体の新旧関係がわかるものに、整合と不整合、貫入、断層の3つのパターンがあることを理解する。 ・露頭に見られる地層を観察して、地球表層の過去のできごと（地史）がわかることを理解する。 ・遠く離れた場所にある2つの地層が同じ時代に堆積したものかどうかを、かぎ層で対比したり、示準化石を用いたりして調べることができることを理解する。 ・地質年代の区分について理解する。 ・地層が堆積した時代を知るのに役立つ化石を示準化石と、地層が堆積した環境を知るのに役立つ化石を示相化石ということを理解する。 ・千葉県の養老川流域で見られる露頭をもとに、区分されたチバニアンという時代を知る。				○
10月	2章 古生物の変遷と地球環境				
146	1節 地球史の最初期				
	・天体としての地球がどのように形成されたのかを理解する。 ・初期（地球の誕生から数億年）の地球のようすを理解する。 ・地表に露出する最も古い岩石、海洋が存在したことの証拠となる岩石のことを理解する。				○
148	2節 先カンブリア時代				
	・地球上で光合成を行う生物であるシアノバクテリアが出現したことで、形成された縞状鉄鉱層、真核生物の出現について理解する。 ・先カンブリア時代の末に、エディアカラ生物群と呼ばれている多細胞生物の出現を理解する。				○
150	3節 古生代				
	・オゾン層の形成にともなって、植物が上陸し、その後動物が陸上に出現したことを理解する。 ・陸上に生物が進出するために必要な条件を考える。 ・ペルム紀末に生物の大量絶滅があったことを理解する。				○
154	4節 中生代				
	・古生代末の大量絶滅を経て、海や陸で新たに繁栄を迎えた生物たちが出現したことを理解する。 ・多くの恐竜が大型化したこと、恐竜の1グループから鳥類への進化が起こったことを理解する。 ・白亜紀中期以降に被子植物が繁栄したことが、昆虫類などの爆発的進化を促したと考えられることを理解する。 ・白亜紀末に生物の大量絶滅があったこと、その根拠について理解する。				○
156	5節 新生代				
	・新生代に草原が出現し、その結果、哺乳類が繁栄したことを理解する。 ・海には、現在のものと似た多くの二枚貝や巻貝が生息したこと、カニ類やエビ類、魚類の種類が増加したことを理解する。 ・第四紀には少なくとも7回の氷期があったこと、約7000年前には縄文海進があったことを理解する。 ・化石などに含まれる酸素同位体比を分析することで、その当時の気候変化のようすがわかることを知る。				○
160	6節 人類の進化				
	・人類と類人猿の違いを知り、最古の人類である猿人、その後進化した原人について理解する。 ・原人から新人への人類の進化の道筋について理解する。				
161	7節 地球環境の変化による生物の変遷				
	・二酸化炭素濃度の変化や環境の推定をどのように行ったのかを理解する。 ・化石の記録から、生物は絶滅と多様性の回復を繰り返してきたが、今後も地球が環境変動する中で、種としての人類の未来をよりよいものとするためには、どのような行動をしていっただいのかを考える。				
	5編 地球に生きる私たち				
	1章 日本の自然の恵みと防災	1h	○		
170	1節 日本の自然環境の特徴				
	・日本列島はプレートの収束境界に位置し、国土が南北に長いことから、多様な気候区分があり、年平均気温で比べると、南北、海拔高度や海洋からの距離などにより差があることを理解する。 ・日本は山と溪谷、海食崖と砂浜、火山などの多様な地形により、自然景観が特徴づけられていることを理解する。 ・日本はその地形の特徴から、水蒸気の供給が豊富な環境であるため、降水量が多く、多様で豊かな水環境をつくっており、気象災害が起こりやすいことを理解する。				○
172	2節 日本の自然の恵み				
	・日本は火山が温泉、地熱などさまざまな恵みをもたらし、日本の周辺の海域では、暖流と寒流がぶつかり合う場所に位置し、豊富な漁場になっていることを理解する。 ・日本では、自然のさまざまなエネルギーを、水力発電、風力発電、太陽光発電、地熱発電などで、電気エネルギーに変換して利用していることを理解する。 ・再生可能とは、人間による自然の恵みの消費と、自然の恵みの回復のバランスの中で成り立っている考え方であることを理解する。				○
174	3節 自然科学の観点からの防災				
	・地震や火山の噴火などの自然現象によって人の命や人間の社会的活動に被害を生じることを自然災害といい、自然災害の発生を完全になくすことはできないが、災害を防止したり、被害を最小限にしたりすることができることを理解する。 ・自治体ごとに作成されているハザードマップは過去の自然災害から予測される被害の範囲などが可視化された被害予想図で、いつでも簡単に災害のリスクを調べることができることを理解する。 ・ハザードマップを絶対的なものとしてみるのではなく、判断材料の1つとして利用し、他のさまざまな信頼性のある情報を活用しながら、災害発生時の行動指針を事前に準備しておくことが重要であることを理解する。				

	2章 地球環境と私たちの生活				
176	1節 地球環境の考え方				
	・地球はひとつのシステム「地球システム」として捉えることができ、自然現象は大気圏、水圏、雪氷圏、固体圏、生物圏などの複数のサブシステムが関与していることが多いことを理解する。 ・地球システムには、いくつものフィードバックが存在し、同時に起こっている。これらの複雑な相互作用を考える必要があることを理解する。 ・自然現象は「時間スケール」と「空間スケール」で分類すると、全体像を大まかにつかむことができることを理解する。 ・自然環境の変化は、システムに関連する外的要因と関連しない内的要因、人間活動によるものがあり、考える対象の時間スケールによって考慮すべき要素が異なることを理解する。 ・人工衛星の観測によると、太陽定数も約11年周期で変動するが、極大時と極小時の差は最大で約0.1%であることがわかったことを知る。 ・大気中の二酸化炭素濃度の変動や炭素の循環のしくみは、どのような時間スケールで見るかによって考慮すべきサブシステムが異なってくることを理解する。	1h	○		○
180	2節 人間活動による自然環境の変化				
	・人間活動が自然環境に影響を与えた例として、オゾン層の破壊について理解する。 ・地球温暖化の問題について理解する。 ・南極の氷の分析による当時の気温の推定や、さまざまな研究機関や研究者による北半球の気温偏差の復元値から、長期的な気温変動のようすが読み取れるが、近年の気温上昇は、これらの自然環境の変動では説明できないほど短期間で気温が上昇していることを理解する。 ・人間活動による自然環境への影響として、プラスチックによる海洋汚染が大きな問題になっていることを理解する。				○
12月	終1章 これからの地球環境				
186	1節 世界の取り組み				
	・気候変動に関するさまざまな世界の取り組みについて整理し、理解する。 ・気候変動の対策を行うために、世界各国の観測データの交換、技術の交流を行うことが重要であることを理解する。 ・地球温暖化などの気候変動問題への対策は、気温の上昇率を抑制して現在の生活をできるだけ維持するという緩和策と、気温が高くなった環境に対応した生活に変える対策を行う適応策の2つに大別できることを理解する。 ・化石燃料を枯渇させないために、自然の力で定常的に補充されるエネルギーである再生可能エネルギーについて理解する。 ・二酸化炭素をほとんど排出しないエネルギーとして、水素エネルギーなどの代替エネルギーがあることを理解する。 ・地球環境問題を考えるときに「持続可能性」という視点が大切であることを理解する。				○

教科	保健体育	履修年次	1,2,3年次
科目名	体育①～③	使用教科書	17-110601050050-901
単位数	①2単位 ②2単位 ③3単位		現代高等保健体育 改訂版
学習目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じた体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		1単元	スポーツの発祥と発展					
1年	136	01	スポーツの始まりと変遷	・スポーツがどのように始まったのかを理解する。 ・なぜスポーツが世界中に広まったのかを理解する。			○	○
	140	02	文化としてのスポーツ	・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を理解する。 ・多様ななかかわり方によるスポーツ文化の変容について理解する。				○
	144	03	オリンピックとパラリンピックの意義	・オリンピズムとオリンピックの価値について理解する。 ・パラリンピックの価値、パラリンピックの意義について理解する。			○	○
			体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身につける。	5h	○		
			球技	・集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことで楽しさや喜びを体感する。	2h	○	○	
			武道	・相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を知る。 ・相手を攻撃したり相手の技を防御することで、勝敗を競い合い互いに高め合うことを理解する。	2h	○		
			ダンス	・イメージを捉えた表現や踊りを通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする。 ・仲間とともにイメージを捉えて表現することの楽しさや喜びを知る。			○	
2年	148	04	スポーツが経済に及ぼす効果	・スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているかを理解する。 ・スポーツにかかわる業種について理解する。			○	○
	150	05	スポーツの高潔さとドーピング	・スポーツの高潔さを脅かす要因について理解する。 ・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを考える。				○
	154	06	スポーツの環境	・スポーツにおける環境問題について理解する。 ・スポーツは環境とどのように調和していけばよいのか理解する。				○
		2単元	運動・スポーツの学び方					
	158	01	スポーツにおける技術と体力	・技能と体力の関係について理解する。 ・技能や体力を高めるときに気をつけるべき点について考える。			○	○

160	02	スポーツにおける技術と戦術			
		・技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを理解する。 ・用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を理解する。		○	○
		体づくり運動			
		手軽な運動から心と体が互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合う。	4h	○	
		球技			
		・集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことで楽しさや喜びを体感する。	2h	○	
		水泳			
		・自己に適した泳法を知り、効率を高めて泳ぐ方法を学ぶ。	2h	○	
		陸上競技			
		・各種目特有の技能を知る。 ・体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。		○	
		武道			
		・相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を知る。 ・相手を攻撃したり相手の技を防御することで、勝敗を競い合い互いに高め合うことを理解する。		○	
3年	164	03 技能の上達過程と練習			
		・技能がどのようなステップを経て上達するかを理解する。 ・練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかについて考える。		○	○
	168	04 効果的な動きのメカニズム			
		・体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを理解する。 ・よい動きを支える調整力について理解する。			○
	172	05 体カトレーニング			
		・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を理解する。 ・筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める方法について考える。			○
	176	06 運動やスポーツでの安全の確保			
		・スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを理解する。 ・スポーツ活動中に起きる重大な事故について、その発生原因と予防方法を理解する。			○
		3単元 豊かなスポーツライフの設計			
	182	01 生涯スポーツの見方・考え方			
		・社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを理解する。 ・ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を理解する。	1h	○	○
	186	02 ライフスタイルに応じたスポーツ			
3年		・「する」にかかわるスポーツライフスタイルについて理解する。 ・現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたについて理解する。		○	○
	190	03 スポーツを推進する取り組み			
		・国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを理解する。 ・自分が住んでいた身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて理解する。		○	○
	194	04 豊かなスポーツライフの創造			
		・これまでとこれからのスポーツライフの違いを理解する。 ・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について理解する。	1h	○	○
		体づくり運動			
		手軽な運動から心と体が互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合う。	4h	○	
		球技			
		・集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことで楽しさや喜びを体感する。	2h	○	○
		ダンス			
		・イメージを捉えた表現や踊りを通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする。 ・仲間とともにイメージを捉えて表現することの楽しさや喜びを知る。	2h	○	
		武道			
		・相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を知る。 ・相手を攻撃したり相手の技を防御することで、勝敗を競い合い互いに高め合うことを理解する。	1h	○	
		器械体操			
		・技ができる楽しさや喜びを理解し、運動観察の方法や体力の高め方などを知る。 ・合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。	2h	○	○
		陸上競技			
		・各種目特有の技能を知る。 ・体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。		○	

教科	保健体育	履修年次	2年次
科目名	保健	使用教科書	17-110601050050-901
単位数	2単位		現代高等保健体育 改訂版
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質を育てる。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
		I 単元	現代社会と健康		1h	○		
4月	4	01	健康の考え方と成り立ち					
			・さまざまな健康の考え方について理解する。 ・健康を成り立たせている要因について理解する。					○

6月	6	02 私たちの健康のすがた	・わが国の健康水準の変化とその背景について理解する。 ・わが国の現在の健康問題について理解する。						○
	10	03 生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について理解する。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について理解する。						
	12	04 がんの原因と予防	・がんの種類や原因について理解する。 ・がんの一次予防と二次予防について理解する。						
	14	05 がんの治療と回復	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解する。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について理解する。						
	18	06 運動と健康	・健康と運動の関係について理解する。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて理解する。						○
	20	07 食事と健康	・食事と健康の関係について理解する。 ・健康的な食事のとり方について理解する。						○
	22	08 休養・睡眠と健康	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解する。 ・健康と睡眠の関係及び健康により睡眠のとり方について理解する。						○
	26	09 喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解する。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて理解する。						○
	28	10 飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を理解する。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について理解する。						○
	30	11 薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解する。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策について考える。						○
	34	12 精神疾患の特徴	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について理解する。 ・現代社会における精神保健の課題について考える。					○	
	36	13 精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法について理解する。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて理解する。					○	
	38	14 精神疾患からの回復	・精神疾患の治療について理解する。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か理解する。					○	
	42	15 現代の感染症	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて理解する。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ理解する。		Ih		○		
	44	16 感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則から理解する。 ・感染症への個人と社会の対策について理解する。						
	46	17 性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解する。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて考える。						
	50	18 健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解する。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について理解する。						
	52	19 健康に関する環境づくり	・社会環境の健康への影響について理解する。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解する。						
		2単元 安全な社会生活							
	58	01 事故の現状と発生要因	・事故の実態と被害の実態について理解する。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて理解する。						○
	60	02 安全な社会の形成	・安全のために必要な個人の行動について理解する。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について理解する。						○
	62	03 交通における安全	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解する。 ・交通事故における責任を3つに分けて理解する。						○
	66	04 応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について理解する。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントについて考える。						○
	68	05 日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解する。						○
	70	06 心肺蘇生法	・心肺蘇生の方法と手順について理解する。						○

8月	3単元 生涯を通じる健康					
74	01 ライフステージと健康					
	・ライフステージと健康の関連について理解する。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について考える。					○
76	02 思春期と健康					
	・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて理解する。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について考える。					○
78	03 性意識と性行為の選択					
	・性意識の男女差について理解する。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて考える。					○
80	04 妊娠・出産と健康					
	・妊娠・出産の過程における健康課題について理解する。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて考える。					○
82	05 避妊法と人工妊娠中絶					
	・家族計画の意義と適切な避妊法について理解する。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について理解する。					○
86	06 結婚生活と健康					
	・心身の発達と結婚生活の関係について理解する。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について考える。					○
88	07 中高年期と健康					
	・加齢にともなう心身の変化について理解する。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて理解する。					○
90	08 働くことと健康					
	・働くことの意義と健康とのかかわりについて理解する。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について理解する。					○
92	09 労働災害と健康					
	・労働災害の種類とその原因について理解する。 ・労働災害を防止するために必要なことについて考える。					○
94	10 健康的な職業生活					
	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて理解する。 ・余暇を積極的にとることの意義について理解する。					○
10月	4単元 健康を支える環境づくり					
98	01 大気汚染と健康					
	・大気汚染の原因と健康への影響について理解する。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について理解する。					○
100	02 水質汚濁、土壌汚染と健康					
	・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を理解する。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて理解する。					○
102	03 環境と健康にかかわる対策					
	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について理解する。 ・産業廃棄物の処理について理解する。					○
104	04 ごみの処理と上下水道の整備					
	・ごみの処理の現状やその課題について理解する。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を理解する。					○
108	05 食品の安全性					
	・食品の安全性と健康とのかかわりについて理解する。 ・食品の安全性に関する今日的課題について理解する。					
110	06 食品衛生にかかわる活動					
	・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について理解する。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について理解する。					
114	07 保健サービスとその活用					
	・保健行政の役割について理解する。 ・保健サービスの活用について考える。					
116	08 医療サービスとその活用					
	・わが国における医療保険のしくみについて理解する。 ・さまざまな医療機関の役割について理解する。					
118	09 医薬品の制度とその活用					
	・医薬品の正しい使用法について理解する。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて理解する。					
11月	10 さまざまな保健活動や社会的対策					
	・国際機関・民間機関などの保健活動について理解する。 ・行政機関による社会的対策について理解する。					
124	11 健康に関する環境づくりと社会参加					
	・健康の保持増進のための環境づくりについて理解する。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを理解する。					

教科	芸術	履修年次	2年次
科目名	美術 I	使用教科書	17-110704116702
単位数	2単位		高校生の美術 I
学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
4月		絵画・作品制作			2h	○		
	6		・身近なものを描く					
			身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりするとともに、身近なものの特徴や美しさなどの全体のイメージなどを捉え、線の強弱や絵の具などの特性を生かして表す。					
	10		・植物を描く					
			植物の印象などを基に、視点や構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、形や構造、色彩の効果、植物の生命力や全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。					
	12		・視点と表し方					
			複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞するとともに、作者の視点に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。					
	14		・私の見つけた風景					
			身近な場所や風景のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、風景から感じ取ったよさや美しさなどを絵の具などの特性を生かして表す。					
	18		・人物を描く					
			自己の内面を見つめ、今の気持ちや性格など自分らしい印象などを基に、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。					
	22		・光を捉える					
			複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞するとともに、作者の視点に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。				○	
	24		・想像を形に					
			想像や空想したイメージなどを基に、形体や色彩、配置、組み合わせなどの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、具体物や抽象的なものの組み合わせ、構図や色彩などの効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして、空想や夢などから、心の中の世界を表す。					
	26		・日本美術					
			屏風や掛軸、絵巻などのよさや美しさ、日本の美術の表現の特質、美術文化の継承と創造について考え、日本の美術の独自の美意識や自然観、制作の知恵などを理解し、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式などを捉え、鑑賞する。					
	32		・浮世絵版画の魅力					
			屏風や掛軸、絵巻などのよさや美しさ、日本の美術の表現の特質、美術文化の継承と創造について考え、日本の美術の独自の美意識や自然観、制作の知恵などを理解し、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式などを捉え、鑑賞する。					○
	38		・版をあらわす					
			版画の表現のよさや特性を理解し、版による表現の効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、全体のイメージや作風などを捉え、線や面などの版による表現の効果を生かし、彫りや製版、刷りを工夫して表す。					
	40		・墨表現の可能性					
			墨による表現の特性やイメージを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、墨の濃淡、にじみやかすれなどの効果を理解し、墨によりつくりだされるイメージを捉え、意図に応じて墨の特性を生かして、積墨法や破墨法、筋目描きなどの技法を体験しながら発想を広げ、いろいろなモチーフのイメージを水墨画で表現する。					
	42		・漫画の表現					
			場面のイメージ、感情や動き、時間の表現などを基に、コマ割りや構図、背景などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、効果線や擬声語などの効果、全体のイメージや作風などを捉え、ペンや筆などの特性を生かして、漫画で表現する。				○	
	44		・視覚のトリックを生かして					
			錯視やイメージの重なりなどを基に、形や色彩、描くものや配置などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、視覚に関する錯覚の効果を理解し、不思議なイメージを捉え、意図に応じて絵の具などの特性を生かして表す。					
	46		・大きさを意識して					
			複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞するとともに、作者の視点に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。					
	53		・作家探究					
			複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞するとともに、作者の視点に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。					○
6月		彫刻			1h	○		
	56		・立体表現の魅力					
			作品がつくられた時代や場所、材料や技法、つくった人の思いや願いへの理解を深め、立体作品の質感や量感、重心など、また、立体作品が置かれた空間の印象などのイメージを捉えて、立体表現のよさや特性について考える。					
	58		・塑造であらわす					
			対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に、形や質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、粘土などの材料の特性を生かして表す。					
	60		・彫ってあらわす					
			対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に、形や質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、特徴的な形の面白さをもつ対象を選び、量感、バランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、生命感や存在感を感じ取り、作品のイメージに合った質感の表現を工夫して、材料の特性を生かして表す。					
	62		・抽象彫刻であらわす					
			自然物や人工物などからイメージしたり、楽しい、悲しいなどの感情から形を考えたりしながら、主題を生成し、造形的なよさや美しさを考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりするとともに、重心やバランス、動きなどを生かして、全体のイメージなどを捉え、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、存在感や美しさなどが感じられる抽象彫刻に表す。					

64	・身近な素材と立体表現				
	素材の特性を理解し、表したいイメージを基に形や色、質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、バランス、動勢などの効果を工夫し、全体のイメージなどを捉え、素材と向き合い、素材の可塑性や弾力性、軽さや重さ、質感や触感、加工や接着の方法などを理解し、素材の特性を生かして表し方を工夫する。				
66	・折りの形				
	作品がつくられた時代や場所、材料や技法、つくった人の思いや願いへの理解を深め、立体作品の質感や量感、重心など、また、立体作品が置かれた空間の印象などのイメージを捉えて、立体表現のよさや特性について考える。				
9月	デザイン・作品制作	2h	○		
68	・デザインの世界				
	「飾る」「伝える」「使う」「環境」などの幅広いデザインの世界の世界や役割を理解し、デザインとは何か、デザインをするときに大切なことは何かを考える。				
70	・私の考えるデザイン				
	「飾る」「伝える」「使う」「環境」などの幅広いデザインの世界の世界や役割を理解し、デザインとは何か、デザインをするときに大切なことは何かを考える。				
72	・ポスターで伝える				
	・伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝達したいイメージなどを捉え、環境問題に対する注意喚起を目的としたポスターを構想する。				
76	・サインのデザイン				
	伝達する内容や目的と見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、認識されやすい効果的な形や色彩を使用し、伝達の目的や意図に基づいて、マークやピクトグラムをデザインする。				
78	・イラストレーションの魅力				
	伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝達したいイメージなどを捉え、環境問題に対する注意喚起を目的としたポスターを構想する。				
80	・キャラクターのデザイン				
	伝えたい情報や使われる場面などを基に、キャラクターの形や色彩、性格設定などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、キャラクターの形や色、性格を表すポーズや持ち物などの効果、伝達したい情報やイメージなどを捉え、材料や用具などの特性を生かしてキャラクターをデザインする。			○	
82	・生活を彩る模様				
	自然物などの形や色彩の特徴や美しさ、用いる場面などを基に、形や色彩の構成などの効果を考え、模様の構想を練ったり鑑賞したりするとともに、自然物などの形や色彩の特徴や美しさ、構成などの効果、全体のイメージなどを捉え、材料や用具の特性を生かし、計画を基に模様をデザインする。				
84	・パッケージのデザイン				
	目的や条件、美しさや使いやすさ、入れるもののイメージなどを基に、形や色彩などの効果などを考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、包むものの形やイメージ、用いる場面などに着目し、包むものの形状や強度、パッケージの目的を考え、全体のイメージなどを捉え、材料の特性を生かして、美しく機能的なパッケージをデザインする。				
86	・暮らしの中の使うデザイン				
	使う人の心情や使用する場などで求められる機能と美しさとの調和、材料の性質や構造などについて理解を深め、使う人や場面、デザインの目的や条件、機能や用途、美しさなどを考えて、暮らしの中にあるものをデザインする。				
88	・デザインとテクノロジー				
	使う人の立場や用いる場面、作者の意図と創造的な工夫、生活や社会を豊かにする美術の働きについて考え、構造、形体、素材などと求められる機能の関係に着目し、美しさや特徴、全体のイメージなどを捉え、デザインとテクノロジーの関係について理解を深める。				
90	・作家探究				
	使う人の心情や使用する場などで求められる機能と美しさとの調和、材料の性質や構造などについて理解を深め、使う人や場面、デザインの目的や条件、機能や用途、美しさなどを考えて、暮らしの中にあるものをデザインする。			○	
11月	映像メディア表現	1h	○		
92	・写真であらわす				
	被写体の印象や瞬間の美しさなどを基に、構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、写す角度や配置、拡大や縮小、光や影、時間の静止などの効果、全体のイメージなどを捉え、カメラの特性を生かして、学校生活で心に残る情景を思いが伝わるように表す。			○	
96	・アニメーションの手法				
	テーマを基に、絵コンテを描くなどして画面の変化のさせ方や速度などを検討し、表現効果や伝達効果を工夫して、映像メディア機器の機能や効果を生かし、画面の構成と時間の流れや物語性、言葉や音などの効果を考え、映像メディア機器等の特性を生かした表現方法などを創意工夫してアニメーションを制作する。			○	
98	・映像で伝えるメッセージ				
	目的や条件を基に、画面の構成と時間の流れや物語性、言葉や音などの映像表現の伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、画面の構成や時間の効果などに着目して、映像メディア機器の特性を生かして表す。				
100	・映像に包まれて				
	映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、機器の特質を生かした創造的な工夫について考えるとともに、光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージなどを捉え、機器の特性を生かした投影の工夫に着目し、人を包み込む映像表現のよさや美しさなどを理解する。			○	○

教科	外国語	履修年次	1年次
科目名	英語コミュニケーションⅠ	使用教科書	17-110801002002-901
単位数	3単位		All Aboard! English Communication I Revised
学習目標	基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる能力を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
4月	10		Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko	・ be動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・ 自分の名前・性格・特徴などを、be動詞を用いて、相手に伝える技能を身につける。 ・ 自分の名前・性格・特徴などを整理して、相手が理解しやすいように伝える技能を身につける。	1h	○		
	12		Pre-Lesson 2 I Like Junk Food!	・ 一般動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・ 自分の日常の行動や食べ物の好みなどを、一般動詞を用いて、相手に伝える技能を身につける。	2h	○	○	
	16		Lesson 1 Breakfast around the World	・ 動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・ 世界の朝食について学んだ事柄や好きな食べ物について、自分の考えや好み、その理由などを整理・理解する。			○	○
	24		Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	・ 進行形（be動詞＋動詞の-ing形）の理解をもとに、オーストラリアに生息する珍しい野生動物について学んだ事柄を用いて、好きな動物について、考えや好み、その理由などを伝える技能を身につける。	1h	○		○
6月	34		Lesson 3 Life with Spade	・ 愛馬との生活について話す布施蒼依さんのインタビューを通して、人と動物の強いきずなについて理解する。 ・ 出かける予定の場所について、英語で伝える技能を身につける。	1h	○	○	○
	44		Lesson 4 A Miracle Mirror	・ ウニ塩原でやりたいこと、行ってみたい場所ややりたいことについて、to不定詞（to＋動詞の原形）を用いて、情報や考え、気持ちを伝える技能を身につける。	1h	○	○	○
8月	56		Lesson 5 A Dream Engine	・ ある工業高校のユニークな取り組みを紹介する記事を通して、将来の夢について考える。 ・ 将来の夢について、英語で伝える技能を身につける。			○	○
	70		Reading 1 Short Stories in English	・ 英語で書かれたShort Storiesの内容を読み取る技能を身につける。	1h	○		○
	74		Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	・ 好きな絵の紹介とその理由について、受け身（be動詞＋過去分詞）を用いて、情報や考え、気持ちを伝える技能を身につける。				○
10月	84		Lesson 7 A Diary of Hope	・ 比較表現（-er）（the -est）（as＋原級＋as）の理解をもとに、アンネ・フランクについて、考えなどを伝える技能を身につける。			○	○
	94		Lesson 8 A Door to a New Life	・ 現在完了形（have[has]＋過去分詞）の理解をもとに、ロボットカフェについて学び、人の生活を豊かにするロボットのアイデアを提案する技能を身につける。	1h	○	○	○
	108		Lesson 9 Ghosts in the Oceans	・ ゴーストギアが海の生き物に与える影響とその解決策について学ぶ。 ・ 地域の環境問題に対する取り組みについて、英語で伝える技能を身につける。	2h	○	○	○
12月	120		Lesson 10 Pigs from across the Sea	・ 関係代名詞who、whichの理解をもとに、第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助や、両地域の現在の交流について学び、考えや情報などを伝える技能を身につける。	2h	○		○
	132		Reading 2 Mujina					

教科	外国語	履修年次	2年次
科目名	論理・表現 I	使用教科書	I7-I10804002002-901
単位数	2単位		NEW FAVORITE English Logic and Expression I Revised
学習目標	多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができるようになる能力を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
4月			Unit 1					
	14		Lesson 1 初めての食事	『未来表現、可算名詞・不可算名詞、受動態』を使って、『褒める、勧める、断る』を表現する能力を身につける。	1h	○	○	○
	20		Lesson 2 道に迷う	『Could you …?や命令文など』を使って、『提案する、依頼する、道順を説明する』を表現する能力を身につける。	1h	○	○	○
	26		Lesson 3 人物紹介	『現在完了形と過去形、to不定詞と動名詞』を使って、『身近な人を紹介する、注意を引く』を表現する能力を身につける。	1h	○	○	○
	32		Lesson 4 体調が悪い	『冠詞・人称代名詞、should had better』を使って、『体調を伝える、体調を尋ねる、指示・アドバイスをする』を表現する能力を身につける。	1h	○	○	○
	38		Lesson 5 買い物	『現在形と現在進行形、現在完了形と過去形』を使って、『描写する、相づちを打つ』を表現する能力を身につける。	1h	○	○	○
	44		Lesson 6 行ってみたい場所	『後置修飾、to不定詞と動名詞』を使って、『希望を述べる、理由を述べる』を表現する能力を身につける。			○	○
6月	50		Lesson 7 イベントに誘われる	『未来表現』を使って、『誘う、誘いを受ける、誘いを断る』を表現する能力を身につける。				○
	56		Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	『howやwhyを用いた文』を使って、『状況を説明する、手助けを申し出る、助言・提案する、お礼や感謝を伝える』を表現する能力を身につける。				○

62	Lesson 9 お気に入りを紹介				
	『前置修飾、後置修飾』を使って、『映画や本のあらすじを要約したり、登場人物などを紹介したりする、感想や批評を述べる』を表現する能力を身につける。	1h	○		○
8月	68 Lesson 10 待ち合わせに遅刻				
	『使役動詞、to不定詞と動名詞』を使って、『相手に謝る、相手を許す、相手を励ます』を表現する能力を身につける。			○	○
74	Lesson 11 家庭でのディスカッション				
	『仮定法』を使って、『共感を述べる、残念な気持ちを述べる、解決策を提案する』を表現する能力を身につける。	1h	○	○	○
80	Lesson 12 英字新聞に投稿				
	『仮定法』を使って、『要望や主張を述べる、理由を述べる』を表現する能力を身につける。	1h	○		○
	Unit 2				
88	Lesson 1 クラスでディベート①				
	『to不定詞と動名詞』を使って、『理由を述べる、例を挙げる』を表現する能力を身につける。				○
94	Lesson 2 クラスでディベート②				
	『否定語』を使って、『相手の意見に反駁する、相手の意見を引用する』を表現する能力を身につける。				○
10月	100 Lesson 3 経験談のスピーチ				
	『後置修飾、受動態』を使って、『できごとをいきいきと描写する、経験からアドバイスをする』を表現する能力を身につける。				○
106	Lesson 4 遊びやスポーツを紹介				
	『現在完了形と過去形』を使って、『ルールや手順を順序だてて説明する、聞き手の知識に合わせて説明する』を表現する能力を身につける。				○
112	Lesson 5 日本をPR				
	『and、but、so』を使って、『事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明する』を表現する能力を身につける。				○
118	Lesson 6 物事の両面を伝える				
	『名詞と無生物主語』を使って、『利点と欠点を述べる、話題を発展させる、話題を変える』を表現する能力を身につける。				○
124	Lesson 7 読み手を納得させる				
	『分詞構文』を使って、『自分の主張について理由を説明する、理由を要約してまとめる』を表現する能力を身につける。				○
11月	130 Lesson 8 読み手を説得する				
	『名詞と無生物主語』を使って、『人の発言を直接引用する、条件を出して意見を述べる、説得する』を表現する能力を身につける。				○

教科	家庭	履修年次	1年次
科目名	家庭総合	使用教科書	17-110902002002-901
単位数	4単位		家庭総合 自立・共生・創造
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
4月		1章	生涯を見通す		2h	○		
	12	1	人生を展望する					
			・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。					○
	16	2	目標を持って生きる					
			・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。					○
		2章	人生をつくる					
	20	1	人生をつくる					
			・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。				○	○
	28	2	家族・家庭を見つめる					
			・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。				○	○
	36	3	これからの家庭生活と社会					
			・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。				○	○
		3章	子どもと共に育つ		1h	○		
	45	1	命を育む					
			・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。				○	
	48	2	子どもの育つ力を知る					
			・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。				○	○
6月	56	3	子どもと関わる					
			・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。					○
	62	4	子どもとの触れ合いから学ぶ					
			・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな知見を広げる。					
	66	5	これからの保育環境					
			・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。				○	○

	4章 超高齢社会を共に生きる					
76	1 超高齢・大衆長寿社会を迎えて					
	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。					○
80	2 高齢期の心身の特徴					
	・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。					○
86	3 高齢者の自立を支える					
	・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。					○
90	4 これからの超高齢社会					
	・これからの超高齢社会の課題を理解する。					○
	5章 共に生き、共に支える	1h	○			
94	1 私たちの生活と福祉					
	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。					
96	2 社会保障の考え方					
	・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。					
98	3 共に生きる					
	・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考える。					○
9月	6章 食生活をつくる					
104	1 食生活の課題について考える					
	・よりよい食習慣を身に付け、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。				○	○
110	2 食事と栄養・食品					
	・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。				○	○
122	3 食品の選択と安全					
	・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。				○	○
128	4 生涯の健康を見通した食事計画					
	・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。					○
134	5 調理の基礎					
	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。					
152	6 食生活の文化と知恵					
	・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。					
156	7 これからの食生活					
	・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。					○
	7章 衣生活をつくる					
163	1 被服の役割を考える					
	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。					○
168	2 被服を入手する					
	・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。				○	○
176	3 被服を管理する					
	・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。				○	○
182	4 被服を作る					
	・目的に合った被服を製作するために、被服が身体に形に合わせてどのように構成されているかを理解する。					
194	5 衣生活の文化と知恵					
	・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。					
198	6 これからの衣生活					
	・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。				○	○
	8章 住生活をつくる					
204	1 住生活の変遷と住居の機能					
	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。					○
212	2 安全で快適な住生活の計画					
	・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。					○

11月	218	3 住生活の文化と知恵					
		・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。					
	222	4 これからの住生活					
		・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。					○
		9章 経済生活を営む					
	232	1 情報の収集・比較と意思決定					
		・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。					
	236	2 購入・支払いのルールと方法					
		・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。	1h	○			○
	242	3 消費者の権利と責任					
		・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。					○
	246	4 生涯の経済生活を見通す					
		・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。					
	248	5 家計をマネジメントする					
		・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。	1h	○			○
	254	6 これからの経済生活					
		・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。					○
		10章 持続可能な生活を営む					
	258	1 持続可能な社会を目指して					
		・持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。					
	262	2 一人一人の力で社会を動かす					
		・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。					
		11章 これからの生活を創造する	1h	○			
	268	1 生活をデザインする					
		・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	1h	○			

教科	情報	履修年次	3年次
科目名	情報 I	使用教科書	17-111001002002-901
単位数	2単位	新編情報 I	
学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を通じた効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
4月	7	1章	情報で問題を解決する					
	8	1	情報とメディアの特性					
			・情報の特性から、情報とは何か理解する。 ・さまざまなメディアの特性を理解する。				○	○
	10	2	問題解決の流れ					○
			・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。					
	12	3	発想法					○
			・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解する。 ・問題解決の各場面で活用できる発想法を学ぶ。					
	14	4	情報モラル					
			・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。				○	○
	16	5	個人情報の流出					
			・情報社会の安全を守るための、法規や制度および個人の責任について学ぶ。 ・個人情報とはどのようなものか理解する。 ・SNSを通して個人情報が流出・特定される仕組みを学ぶ。					○
	18	6	傷つかない傷つけないために					
			・SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。					○
	20	7	知的財産権					
			・著作権について理解する。 ・引用の仕方を理解する。				○	○
	22	8	情報技術の発展					
			・情報技術による社会・生活の変化を理解する。				○	○
	24	9	情報化と私たちの生活の変化					
			・情報化による健康への影響などの問題について学ぶ。					○
	26	10	よりよい情報社会へ					
			・サイバー犯罪などの問題について学ぶ。					○

6月	35	2章 情報を伝える					
	36	11 コミュニケーション手段の変化					
		・メディアの特性について学ぶ。	1h	○			○
	38	12 ネットコミュニケーションの特徴					
		・近年のソーシャルメディアによる人のつながりを理解する。 ・ネットコミュニケーションの特徴である記録性や匿名性について学習する。				○	○
	40	13 デジタルの世界へ					
		・デジタルデータのメリットとデメリットを理解する。				○	○
	42	14 数値と文字のデジタル表現					
		・2進法と情報の単位について学ぶ。 ・文字のデジタル表現について学ぶ。				○	○
	44	15 音と画像のデジタル表現					
		・画像や音声の圧縮形式を理解する。					○
	46	16 色と動画のデジタル表現					
		・デジタルでの色の原理を理解する。					○
	48	17 目的に応じたデジタル化					
		・データの圧縮について学ぶ。				○	○
	50	18 情報デザイン					
		・情報デザインの方法である構造化、抽象化、可視化を理解する。					
	52	19 ユニバーサルデザイン					
		・ユニバーサルデザインについて理解する。 ・ユーザインタフェースとユーザエクスペリエンスについて理解する。					○
	54	20 情報デザインの流れ					
		・情報デザインのプロセスを理解する。 ・情報デザインのプロセスを活用する方法を身につける。 ・デザイン思考に基づいた分析を理解する。					
8月	63	3章 コンピュータを活用する	1h	○			
	64	21 コンピュータとは何か					
		・コンピュータの基本構成について理解する。					○
	66	22 ソフトウェアの仕組み					
		・ハードウェアとソフトウェアについて理解する。					○
	68	23 演算の仕組みとコンピュータの限界					
		・プログラムの動作の仕組みについて学ぶ。 ・コンピュータの演算の仕方について学ぶ。					○
	70	24 アルゴリズムの表現					
		・コンピュータの処理のための基本的な回路について学ぶ。 ・アルゴリズムの必要性を理解する。					○
	72	25 プログラムの基礎構造1					
		・プログラムの制御構造について学ぶ。					○
	74	26 プログラムの基礎構造2					
		・プログラムを構成する変数を理解する。					○
10月	76	27 プログラミングの工夫					
		・制御構造を組み合わせるプログラムを理解する。					○
	78	28 発展的なプログラム					
		・リストや配列をプログラムを理解する。					○
	80	29 モデル化とシミュレーション					
		・モデル化の考え方と、モデルの分類について学ぶ。					○
	82	30 シミュレーションの活用					
		・モデル化とシミュレーションにおける注意点を理解する。					○
	91	4章 データを活用する	1h	○			
	92	31 ネットワークとインターネット					
		・情報通信ネットワークとは何か学ぶ。 ・LANとWANの違いを学ぶ。					○
11月	94	32 インターネットの仕組み					
		・プロトコルと、その1つとしてTCP/IPについて学ぶ。					○
	96	33 サーバとクライアント					
		・ネットワークを構成するハードウェアについて学ぶ。 ・サーバの役割について学ぶ。					○
	98	34 インターネット上のサービス					
		・インターネットでのIPアドレスとDNSの役割を学習する。 ・WWWについて理解する。					○
	100	35 情報セキュリティ					
		・情報セキュリティの機密性、完全性、可用性を理解する。 ・情報セキュリティを確保するための方法・技術について学ぶ。					○
	102	36 データの活用とデータベース					
		・データとは何か学ぶ。					
	104	37 さまざまなデータモデル					
		・データベースの役割がどのようなものか理解する。					○

106	38 データの形式				
	・社会でのデータベースの活用例を学ぶ。				○
108	39 データ分析の流れ				
	・分析の目的に合わせたデータの利用方法を学習する。				○
110	40 2つの事柄の関係				
	・データの代表値とグラフ化による分析方法を理解する。 ・欠損値や外れ値など、適切なデータの選択をする。				○
119	5章 活動して提案する				
134	51 気まぐれA I				○
136	52 お知らせセンサ				○

教科	総合的な探究の時間	履修年次	1,2,3年次
科目名	総合的探究①～③	使用教科書	—
単位数	各2単位	使用教科書	—
学習目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する能力を養うことを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
1年	通年	1.テーマについて深く掘り下げて考える		・身近な時事問題について考える。 ・身近な時事問題を取り上げ深掘りする。 ・身近な時事問題を扱いレポートの書き方の基本を身につける。	6h	○	—	○
	前期	2.都市の環境について学ぶ						
1年				・都市環境の課題にどのようなものがあるかを理解する。 ・都市環境の課題について、なぜ課題となっているかを知る。 ・都市環境の課題についての解決策について思考する。			—	○
	後期	3.世界の情勢について学ぶ		・世界の紛争がなぜ起きるのか深掘りする。 ・飢えない世界について考える。			—	○
2年	通年	4.テーマについて深く掘り下げて考える		・興味のある時事問題について考える。 ・興味のある時事問題を取り上げ深掘りする。 ・調査内容を考察し、まとめる。	6h	○	—	○
	前期	5.暮らしの知恵について学ぶ		・暮らしの知恵にどのようなものがあるかを理解する。 ・暮らしの知恵について深掘りする。			—	○
	後期	6.世界の課題について学ぶ		・環境汚染について知る。 ・環境汚染がなぜ起きるのか考える。 ・環境汚染の解決に向けて深掘りする。			—	○
3年	通年	7.テーマについて深く掘り下げて考える		・興味のある時事問題について考える。 ・興味のある時事問題を取り上げ深掘りする。 ・調査内容を考察し、未来を想像するし深掘りする。	6h	○	—	○
	前期	8.暮らしの知恵について学ぶ		・暮らしの知恵にどのようなものがあるかを理解する。 ・暮らしの知恵について深掘りする。			—	○
	後期	9.世界の課題について学ぶ		・世界の教育事情を知る。 ・教育について解決策を探る。 ・インフラ問題について、深掘りする。 ・インフラ問題について自分の考えを持つ。			—	○

教科	学校設定	履修年次	3年次
科目名	産業社会と人間	使用教科書	—
単位数	1単位	使用教科書	—
学習目標	働く事の意味など、身近な問題について思考し、将来に対する展望を広げる		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
通年		1.地方の地域産業を学ぶ		地方の地域産業の実際を学び、働くことの意義を理解する。	1h	○		
通年		2.テーマについて深く掘り下げて考える		・身近な問題について考える。 ・身近な問題を取り上げ深掘りする。	1h	○		
前期		3.日本の文化・技術に学ぶ		日本の文化・技術の実際を学び、働くことの意義を理解する。			○	○
後期		4.仕事について学ぶ		自分の適性や将来について考え、自己の生き方を探究する。				○

教科	－	履修年次	1,2,3年次
科目名	特別活動	使用教科書	－
時間数	各10時間		－
学習目標	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることを目指す。		

時期	頁	章	項目（単元）	主な学習活動／ねらい	時間	面接	減免	レポート
通年		ホームルーム						
				・生徒の自発的な活動を中心として、個々の生徒についての理解を深め、教師と生徒、生徒相互の信頼関係を育み、ホームルーム経営の充実を図る。 ・気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする。	4h	○	—	—
		生徒会活動						
通年				・学校行事の計画、準備、実施など、生徒にとって可能な範囲で自主的な活動を行わせ、個々の生徒に積極的な活動を促し、自主的な協力や自律的な態度を養う。			—	
		学校行事						
		集団宿泊的行事						
				・体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの事後の活動にも注力する。	6h	○	—	—
		文化行事						
				・体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動に積極的に取り組む。	6h	○	○	—